

# 2001年度 事業の概要

<b>1 調査と研究</b> .....	26	<b>公開講演会</b> .....	40
飛鳥藤原京の発掘調査 .....	26	第88回公開講演会 .....	40
平城京の発掘調査 .....	26	第89回公開講演会 .....	40
<b>文化遺産研究部の研究活動</b> .....	27	日中共同研究講演会 .....	41
●建造物研究室の調査と研究 .....	27	<b>発掘調査現地説明会</b> .....	41
●歴史研究室の調査と研究 .....	28	<b>研究集会</b> .....	42
●遺跡研究室の調査と研究 .....	28	<b>文部科学省科学研究費助成研究</b> .....	43
<b>埋蔵文化財センターの研究活動</b> .....	29	<b>学会・研究会等の活動</b> .....	46
●遺物調査技術研究室の調査と研究 .....	29	<b>調査研究彙集</b> .....	46
●遺跡調査技術研究室の調査と研究 .....	29	<b>文化庁が実施する宮跡復原整備事業等への 指導・助言・協力等</b> .....	47
●古環境研究室の調査と研究 .....	30	●平城宮跡の整備 .....	47
●保存修復科学研究室の調査と研究 .....	30	●藤原宮跡の整備 .....	47
●保存修復工学研究室の調査と研究 .....	31	●キトラ古墳の予備調査 .....	47
●文化財情報研究室の調査と研究 .....	31	<b>2 研修・指導と教育</b> .....	48
●国際遺跡研究室の調査と研究 .....	31	<b>埋蔵文化財センターの研修と指導</b> .....	48
<b>国際学術交流</b> .....	32	2001年度埋蔵文化財発掘技術者等研修課程一覧 .....	48
●中国社会科学院考古研究所との共同研究 .....	32	2001年度日本各地の遺跡・建造物等に関する指導・協力一覧 .....	50
●中国遼寧省文物考古研究所との共同研究 .....	32	<b>京都大学大学院の教育</b> .....	50
●河南省文物考古研究所との共同研究 .....	32	<b>奈良女子大学大学院の教育</b> .....	50
●韓国国立文化財研究所との共同研究 .....	33	<b>3 展示・公開</b> .....	51
●異なる気象条件下における不動産文化財の 発掘技術および保存に関する調査研究 .....	33	<b>飛鳥資料館の展示</b> .....	51
●炳靈寺文物保管所と炳靈寺涅槃塑像の 補修に関する共同研究 .....	33	<b>平城宮跡資料館の展示</b> .....	51
<b>在外研修の成果</b> .....	34	<b>飛鳥藤原宮跡発掘調査部の速報展示</b> .....	51
文化財の公開活用をめぐる調査研究 .....	34	<b>解説ボランティア事業</b> .....	52
遺跡の保存整備と活用に関する研究 .....	34	<b>図書資料・データベースの公開</b> .....	52
環境考古学の自然科学的研究法の確立 —特に動物遺存体の調査法— .....	34	<b>4 その他</b> .....	53
<b>海外からの主要訪問者一覧</b> .....	35	刊行物・データベース等 .....	53
<b>海外からの招聘者一覧</b> .....	37	人事異動 .....	56
<b>海外渡航一覧</b> .....	38	予算等 .....	57
		職員一覧 .....	58

# 1 調査と研究

## 飛鳥藤原京の発掘調査

飛鳥・藤原地域では2001年度に計16件の発掘調査・立会調査をおこなった。藤原宮の調査は6件、藤原京の調査は3件、飛鳥地域等の調査は7件であった。以下、主な調査成果を略述する。

藤原宮大極殿院の調査(第117次)では、東面回廊とその東側にある東西棟礎石建物SB530の北西部を検出した。回廊は複廊であり、ほぼ原位置の礎石2箇所を確認した。SB530はその規模が確定し、大極殿に次ぐ大規模な建物であることが判明した。

藤原宮東南官衙地区の調査(第118次)は、宮の南東に位置する高所寺池の護岸の改修にともなうもので、藤原宮の南面大垣・内濠・外濠を確認した。また、先行条坊である東二坊坊間路と六条条間路の両側溝を検出した。このうち東二坊坊間路東側溝は南面大垣・内濠・外濠と重複し、遺構の切り合いなどから外濠の開削→先行条坊側溝の埋め立て→大垣建設・内濠開削、という工事手順も判明した。

藤原京左京七条一坊西南坪の調査(第115次)では、坪心のやや南、南北中軸線上で大型の東西棟掘立柱建物を検出した。この時期には少なくとも一町占地であったことが窺えた。その背後の池状遺構からは多量の木簡を発見した。その内容は多様であるが、皇族・貴族とのやり取りの木簡、中務省に出した「解」や「移」の木簡、官人の位階昇進等に関する木簡などが特徴的である。これらは特定の皇族・貴族の家政機関的色彩は薄く、中務省の事務に関わりが強い。大宝律令施行後、事務量の増加にともなって宮内の官衙が手狭になり、宮に近接する当地に中務省ないしそれを補完する機能のある施設を置いた可能性が考えられる。なお、調査区北東部で検出した2条のL字状の溝は、その北東部を内郭とする区画施設と考えることもでき、敷地は左京七条一坊の四町を占める可能性もある。

京内の本薬師寺の調査(第114-3次)では、掘立柱塀を検出し、これらがある時期の北面大垣および西面大垣である可能性が高い。小規模な調査ではあったが、寺域の北西隅に関する貴重な資料を得た。

飛鳥地域にある石神遺跡の第14次調査(第116次)では、A1・A2期には、大規模な基幹水路が開削・改造され、7世紀前半の斉明朝以前から大掛かりな造営がおこなわれていたことが確実となった。最盛期と考えられる斉明朝のA3期には建物や溝が密集し、きわめて短期間に

改作を繰り返す状況を確認した。周辺には倉庫とみられる総柱建物が多数存在し、さまざまな物資を収納するための区域だったとみられる。7世紀後半の天武朝と考えられるB期は、遺構にまとまりを欠き、これまではあまり注目されなかった。しかし、掘立柱南北塀を区切りとして、東側に広場状の空間、西側に長大な建物群が配置されていることがわかった。

奥山廃寺(第114-8次)での調査は、奥山久米寺の東門の改修にともない実施したものである。調査区は、塔基壇を二重にめぐる犬走り石列の東北隅推定位置である。本調査ではこの遺構そのものは検出できなかったが、あらたに瓦敷きや見切りとなる可能性がある石・瓦列を検出した。また、入母屋造用鴟尾の左面基底部の破片が出土した。この鴟尾の正段や縦帯の意匠・成形手法は岡山県牛窓町所在の寒風古窯址群出土例と酷似しており、岡山県の児島湾を中心とした広い範囲で、飛鳥地域の寺院へ供給する瓦類の生産がおこなわれている可能性が高くなった。この鴟尾は、出土位置からみて金堂所用と考えられ、金堂の建築自体も比較的格の高いものと推定できるようになった。

これらの調査成果の詳細については、『奈良文化財研究所紀要2002』を参照されたい。

なお、発掘調査にともなう現地説明会を実施した。実施年月日、担当者は以下の通り。

飛鳥藤原第115次(藤原京左京七条一坊西南坪)

2001年6月30日 内田 和伸

飛鳥藤原第116次(石神遺跡)

2001年10月6日 石橋 茂登

飛鳥藤原第117次(藤原宮大極殿院)

2002年3月23日 山下信一郎

## 平城京の発掘調査

平城宮跡発掘調査部が2001年度に実施した発掘調査は、平城宮跡4件、平城京跡15件、計19件である。このうち京内の寺院に関連する調査が12件あり、興福寺中金堂をはじめ一乗院、大乘院と興福寺境内地における調査が集中していたことに特色がある。

平城宮跡では、第二次朝集殿院南門(第326次)、および第一次大極殿院西楼(第337次)の調査を実施した。第326次調査は第二次朝堂院・朝集殿院地区に関する計画調査の一環である。南門基壇は大きく削平を受けていたが、

掘込地業および門の東西にとりつく掘立柱塀の存在を確認した。第337次調査は第一次大極殿地域の復原整備事業にともなう調査である。1973年の第77次調査で検出した東楼と南門をはさむ対称位置に、同規模の西楼が存在することを確認した。この調査は2002年度に継続して実施する予定である。このほか、宮北方において2カ所の小規模調査を実施した。

興福寺中金堂の調査(第325次)は、第1期境内整備事業にともなう第4年次の調査で、前年度からの継続調査である。中金堂基壇を中心にその周囲を含め1836㎡にわたる調査を実施した。中金堂は7度の被災と7度の再建を重ねているが、調査により創建期から現代にいたる変遷過程が判明したことに加え、従来から課題であった創建鎮壇具の埋納場所を確定し、あらたな鎮壇具の出土をみるなど数多くの成果があった。なかでも、基壇本体が地山削り出しによること、正面階段が当初の1間幅3基から5間幅、さらに3間幅へ変化したこと、北面回廊が単廊形態から複廊形態へ改造されたことなどは重要な知見である。

興福寺一乗院跡では2件の調査を実施した(第330・328次)。いずれも前年度より進めている奈良地方裁判所庁舎建て替えにともなう事前調査である。第330次調査では、寢殿北側において上下2時期の庭園園池を検出し、護岸や池底の礫敷き、池中立石など庭園意匠の細部が良好な状態で遺存していることを確認した。また、敷地北辺で実施した第328次調査では、最大で厚さ1.4mにおよぶ土器の堆積層を確認し、古代から中世にかけて大規模な土地造成がおこなわれ、敷地の拡張に合わせ景観が改変されたことをうかがわせた。

同じく旧大乘院庭園の調査(第336次)は、(財)日本ナショナルトラストによる保存修理事業の一環で、今年度で7年目の調査となる。今回は園池の西北部を調査し、『大乘院四季真景図』に描かれた近世の西小池の北半を検出した。合わせて元興寺の寺域であった奈良時代の遺構・遺物、あるいは明治以後の遺構群など、池の造成に前後する時期の状況を層位的に把握し、当地域の歴史の変遷の具体像を明らかにした。また、東大池に浮かぶ天神島についてもトレンチ調査をおこない、造成時期が近世に降る可能性を示唆した。この他、寺院関係の調査としては、法華寺、薬師寺、西大寺に関わる調査を実施している。

平城京内の官衙、宅地に関わる調査は少ないが、第329次調査では左京三条二坊の長屋王邸跡中央内郭南辺において、正殿SB4500に匹敵する規模の東西棟建物SB4235の

西妻柱列を確認した。東妻を確認した1986年の第178次調査から15年目に建物規模が確定したことになる。

これらの調査成果の詳細については、『奈良文化財研究所紀要2002』を参照されたい。なお、発掘調査にともなう現地説明会を実施した。実施年月日、担当者は以下の通り。

第325次調査(興福寺中金堂)

2001年6月17日

馬場 基

第336次調査(旧大乘院庭園)

2001年12月8日

神野 恵

第326次調査(平城宮朝集殿院南門)

2002年3月16日

平澤麻衣子

## 文化遺産研究部の研究活動

### ●建造物研究室の調査と研究

#### 古代建築の調査研究

現存建築・古材、遺構・遺物などの現物資料を中心に古代建築の技法に関する研究を進めている。2001年は元興寺禅室小屋裏保管古材の調査を実施し、台帳を整えた。また、島根県大社町からの受託研究として本年度から2カ年計画で出雲大社社殿の調査に着手した。出雲大社社殿は近世再建ながら本殿と一連の時期の建築群がまとまって残り、社殿全体の構成や建築の形式には一部に古式をとどめていると考えられる。

#### 高山の町並み調査

2001年度からの2カ年計画で岐阜県高山市の伝統的建造物群保存対策調査をおこなっている。すでに保存地区となっている上三之町を中心とする地区の北側に隣接する下町・大新町地区を対象に、伝統的建造物群としての価値評価とその保存対策を検討している。この調査では高山の旧城下町全域の建物についても悉皆調査し、その歴史的環境の中に既存の保存地区と今回対象地区を位置付け、歴史の重層性を継承できるまちづくりの方法を提案していく予定である。

#### 木造建造物の保存修復に関する調査研究

1998年度からの7カ年計画で発足したプロジェクトであり、多様化する文化財建造物の保存修復に対処する新たな体制と組織を検討すること、過去の事例を検証しながら今後の保存修復のあるべき考え方、方法を探ること、参考となる海外の事例を調査研究すること、保存事業にともない蓄積された学術資料を再評価してその保存活用方法を探ることを目的とする。本年度は補足調査の実施、検討会の

開催、海外資料の翻訳を進めるとともに、中間報告の作成に向けて一部執筆作業を進めた。

#### 唐招提寺千手観音立像宮殿形持物の調査

文化遺産研究部における『南都諸大寺の歴史的環境に関する調査研究』の一環として、唐招提寺金堂安置の国宝千手観音立像の宮殿形持物を対象に、軒廻りの技法を明らかにするための実測調査をおこなった。対象物が工芸品であることを考慮して、非接触のレーザースキャナによる測量方法を採用し3次元デジタルデータを得て、建築規矩図に則った出力図を作成し、古代建築の軒反りを知る数少ない根本資料を得た。

#### 平城宮建物復原実施にともなう調査研究

大極殿の施工着手に当たり、これまでの復原事業における資料を整理して提供するとともに、施工に関連して今後必要な調査研究についての計画案を提示した。また、大極殿院の基本設計準備に必要な資料として、南門・東西楼・築地回廊等の復原にかかる基本資料を整理し提示した。

またこの他に、全国各地で実施されている文化財建造物の修理事業および、遺跡整備事業に関わる遺構整備・復原、建物修理等に対して援助・助言をおこなった。

### ●歴史研究室の調査と研究

南都の寺院が所蔵している書跡資料を継続的に調査研究をしている当研究室は、本年度は、興福寺、薬師寺、東大寺の調査をおこなった。興福寺関係調査は『興福寺典籍文書目録第三巻』に目録を収録する予定の第61函～第80函分について、第79函分までマイクロフィルムによる写真撮影を終えた(但し第68、77函の大般若経収納函は除く)。また絵図函である第75函と番外の子院絵図函に収められている絵図・指図類は整理のうえ、番号を付して、大判フィルムで撮影した。絵図の内容については『奈良文化財研究所紀要2001』に紹介し、考察を加えた。薬師寺は、記録文書が収められている木箱28箱のうち、大型函であったため整理、調書作成が数カ年に及んだ第26、27函分の調書作成が完了し、木箱28箱分すべての調書作成が終了した。第26函で613点、第27函で263点を数える。現在、第29函との函号を付した文書筆筒の引き出しに納められた冊子本の調書作成中である。なおマイクロフィルムによる写真撮影は第23函分を撮影中である。また薬師寺は典籍文書のデータベース作成作業を継続しておこなっている。

東大寺は、東大寺図書館収蔵庫第4室に収蔵されていた

未整理聖教文書の調査に着手した。未整理聖教文書函数は現在確認のところ113箱あり、多種多様の膨大な量の資料群である。ところで従来書跡資料の調書は原稿用紙で作成していたが、今回この東大寺調査には、科学研究費補助金も交付されることになったので、その費用を充当してノート型パソコンを複数台購入して、調査者が調査現場で直接にデータをパソコンに入力する方法を採用した。今後、原稿用紙による調書作成、調査カード利用の調書や現場でパソコンを利用する調査など、調査対象や調査期間の違いによって、その使い分けが必要であろう。

法隆寺については、イ函からリ函に収納されている古文書について釈文作成の作業を継続しておこなっている。

その他の寺院では、寺側の調査協力の要請を受けて、京都・仁和寺黒塗手箱聖教と醍醐寺聖教、滋賀・石山寺一切経函の調査をおこなった。また奈良県教委担当の県内所在黄檗版大般若経調査、滋賀県教委担当の長命寺文書調査、奈良吉野町教委担当の上田家文書調査が継続しておこなわれており、それら調査に指導協力をしている。

また平城宮関係資料では、明治から大正にかけて平城宮跡保存運動に尽力をした棚田嘉十郎関係資料20点が奈文研に寄贈された。今後資料の調査をふまえて、展示などをおこないたいと考えている。

### ●遺跡研究室の調査と研究

遺跡研究室は2001年4月発足の文化遺産研究部に新設された研究室である。遺跡整備に関する調査研究と、庭園に関する調査研究が当研究室の二本柱となる。

遺跡整備に関する調査研究として、整備後の遺跡の活用に対する関心が急速に高まっている現状に鑑み、中期計画では全国各地の大規模遺跡の整備・活用・管理に関する情報収集・調査・分析をとりあげた。計画は5カ年で、全国の対象遺跡の現地調査を順次おこない、最終的には報告書を作成することとしている。初年度にあたる2001年度は北黄金貝塚(伊達市)など北海道の7カ所と御所野遺跡(岩手県一戸町)など東北地方の9カ所、計16カ所の遺跡を調査した。現地調査のとりまとめは(a)整備手法・技術、(b)維持管理、(c)学習施設としての活用、(d)観光資源としての活用、(e)オープンスペースとしての活用、(f)地域の文化施設としての活用、の六つの観点から現状と課題を整理した。整備後の活用、管理が適切になされるためには整備段階から活用、管理についての綿密な計画を立てる必要があること、担当者をはじめとして自治体の熱意、力量による

ところが大きいことが明らかになった。なお、研究で得られた成果については、必要に応じて各遺跡にフィードバックすることとしており、当研究室がこの分野における情報センターの役割を担うものと考えている。

庭園に関する調査研究として、中期計画では日本の古代庭園を対象として文献史料、発掘調査資料、遺跡現地における地形・水系調査などに基づく多角的な研究を設定した。個々の庭園の形態、技術などを明らかにすることによって、庭園の源流、成立過程、変遷を解明することを期している。初年度は古墳時代以前の泉と流れからなる遺構をとりあげ、それらが庭園として位置づけられるかとの観点を中心に分析検討した。対象とした遺構は、城之越遺跡（三重県上野市）、三ツ寺I遺跡（群馬県群馬町）など7カ所である。これらの遺構と7世紀以降の庭園との関係についていくつかの問題点を明らかにすることができた。2002年度以降に分析する飛鳥時代以降の庭園遺構との比較の中で結論を得たいと考えている。また、発掘庭園（古代～近代）に関する資料収集とデータベース化も中期計画で設定した庭園に関する研究項目であるが、これまでに287件の発掘庭園の所在地・時代・構成要素などの基本項目を和文・英文でデータベース化し、ホームページ上での公開をおこなった。英文データベースの公開は当研究所での最初の事例である。

この他、地方公共団体がおこなっている遺跡の整備事業や庭園の保存修理事業に関する指導、助言も当研究室の重要な役割であり、2001年度は安土城跡、田和山遺跡など41件の史跡等についておこなった。

## 埋蔵文化財センターの研究活動

埋蔵文化財センターは7研究室からなり、それぞれの研究課題に取り組んでいるのはいうまでもなく、外部への埋蔵文化財の調査や保存についての研修を開催し、また各地でおこなわれる発掘調査や保存事業について、地方公共団体や関係機関の求めに応じて、専門的・技術的立場から指導と協力をおこなっている。

### ●遺物調査技術研究室の調査と研究

当研究室では、まず第一に、官衙遺跡発掘調査法の研究を実施している。この研究では、古代官衙遺跡の発掘調査や研究・遺跡の保存活用資するため、「日本古代の官衙

遺跡—官衙遺跡の調査研究法—」の刊行を目指して、全国の最新の調査研究成果を収集・整理し、原稿の作成と編集作業を進めている。

第二に、古代官衙遺跡とともに、各地の集落・寺院・豪族居宅遺跡等の発掘調査資料の収集・整理し、適宜公開を目指して、データベース作成作業を実施している。このうち、遺跡の性格・所在地・文献目録の一覧は、インターネットで順次更新・公開している。

第三に、鳥取県気高町の指導依頼を受け、上原遺跡群（因幡国気多郡衙・寺院・居宅）出土遺物の整理作業を進め、遺物の製作技法・形式・分類・編年に関する研究をおこなっている。そのうち、包含層中の小片多くを占める瓦類について、こうした見過ごされがちな遺物からいかなる情報を得ることができるか、どのようなサンプリング・整理・観察・分析法が有効かを検討するため、試行的に悉皆調査をおこなっている。また、瓦廃棄土坑の一括遺物についても調査し、丸平瓦の叩きや製作技法の異同の関係を検討するため、近接して存在している寺内廃寺の出土瓦の調査も実施している。

第四に、遺物調査技術の研究に関して、土器実測図にみられる多様な図化表現法に焦点を当てて紹介するための準備作業として、主な実測図などの収集に着手した。

第五に、官衙・集落関係遺物の分布・機能・編年などを通して、在地社会における律令支配のあり方を考える一環として、墨書土器の機能と性格をめぐる研究集会をおこなった。

第六に、各地の公共団体からの依頼により、全国官衙・寺院遺跡等の発掘調査、遺物整理、遺跡の保存整備等について約20件ほどの指導助言をおこなっている。

### ●遺跡調査技術研究室の調査と研究

遺跡調査なかでも発掘調査の目的は、地下に埋もれている遺跡、遺物が包含する歴史情報を取り出すことにある。この目的を達成するには、遺物分布や地形の認定、地形図作成など地表面における観察、非破壊の方法である物理探査の応用などがあり、手と目で確認しながら掘る発掘調査は、情報収集では最も精度が高く量的にも多いといえる。

しかしながら、発掘調査は土を掘り動かすので、失敗した場合にはやり直すことができない、という大きな前提がある。無計画な発掘調査では十分な情報収集も期待できない。そこで、本研究室では遺跡調査の迅速化と地下情報収集の拡大を目的に、遺跡探査を応用する方法の開発を主体とした研究を継続している。

発掘調査に先立ち地下の様子を知ることができれば、それに従った調査計画や発掘手法が選択でき、発掘調査の本来の目的達成に役立つからである。探査方法のなかでは、地中レーダー探査法を用いた迅速測定と深層探査、およびそのデータ解析を課題としている。

2001年度にあっては、多数の各種性格の遺跡で実験測定をおこなったが、福岡県・大刀洗町所在の下高橋官衙遺跡において、正倉院内の正倉建物や外郭の濠、同じく福岡県・久留米市の筑後国府遺跡では政庁域内の西脇殿と溝、門の遺構を地中レーダー探査によって特定するという画期的成果をあげた。

従来、わが国では遺跡探査の方法で、柱穴を検出して明らかとなる掘立柱建物の特定には成功したことはなかった。その意味では、遺跡探査と遺跡調査の方法に対する新たな局面を切り開くことができたと評価できる。今後、この分野の研究がこれを契機に進展するものと思われる。

同じく地中レーダーの方法を用いて深層を探査する方法では、兵庫県・姫路城、平城宮大極殿などを対象に実験測定を続けてきた。その際には、地中レーダー探査のみならず、電気探査など他の探査方法も同一範囲へ応用して、異なる物理的要素から土壌を判別するということが基本としている。それぞれの結果に共通性が認められれば、探査成果としては信頼度の高いものとなるからである。この深層遺構探査では、まだ十分満足できる成果をあげるに至っていないので、引き続き研究をおこなう必要があると考えている。

### ●古環境研究室の調査と研究

古環境研究室は、古年輪を扱う年輪年代法・年輪気象法分野と動植物遺存体や遺跡土壌を扱う環境考古分野とがある。古年輪研究分野の調査・研究では、広い地域の各種木質古文化財から多量の年輪データを集積することが重要である。本年度は、島根、鳥取、奈良、大阪、京都、滋賀、静岡、新潟、長野、東京、福島、山形、秋田、宮城、岩手、青森の16都府県下の出土木材、古建築部材、美術作品、地中の埋れ木などを対象に年輪データを集積した。なかでも、奈良県桜井市に所在する勝山古墳の周濠から出土した板材の年輪年代は、前期古墳の開始年代を考えるうえで重要な年代情報となり、多くの考古学関係者の関心と呼ぶこととなった。また、鳥取県三朝町にある国宝三仏寺投入堂の古材調査および同寺に安置されている御本尊蔵王権現立像の調査から、投入堂は平安時代後期(12C)の創建と判明した。蔵王権現立像の光背は発見された願文の紀

年銘(1168年)とほぼ同じ1165年の伐採年のものであることが確定し、投入堂と同様、仏像も平安時代後期のものであることが明らかとなった。

環境考古分野では、1) 全国の遺跡から出土した動物遺存体、2) 低湿地遺跡出土の動植物遺体、3) 人間活動が介在する土壌など、それぞれの調査および研究を行っている。現在、客員研究員2名、特別研究員1名、主とした成果として、奈良文化財研究所蔵図書を利用して、全国遺跡出土の動物遺存体データベースを、一応完成させ、さらに追加、訂正をおこないつつ、これまでの成果は総合研究大学院大学においてKAIZUKAデータベース(<http://koko.soken.ac.jp/groups/kaizuka/index.html>)として公開中である。動物遺存体研究の近年の成果として、中、近世の斃牛馬処理遺跡の発掘により、未解放部落の起源論に考古学から資料を提供したこと、岡山城本丸の発掘から、大名クラスの宴席での魚介類中心のメニューを裏付け、別の調査で明らかであった二の丸の家老屋敷内での盛んな肉食メニューと際違った違いを明らかにすることができた。その他にも、走査型電子顕微鏡をはじめとする画像処理機器を用いた骨の加工痕の研究により、石器、金属器の区別、あるいは金属器の種類の判別などの研究を進めつつある。

### ●保存修復科学研究室の調査と研究

保存修復科学研究室では、遺物の材質・構造調査、遺物の保存処理、遺構の保存処置に関する調査・研究をおこなった。以下に概要を述べる。

遺物の材質・構造調査としては、当研究所が調査をおこなっている発掘現場より出土した有機質遺物の同定、金属遺物および石製品の材質・構造調査をおこなった以外に、1) レーザーラマン分光法を非破壊非接触分析法として文化財に適用するための開発研究、2) 平城宮および平城京より出土した官銭の調査研究、3) 古代壁画の材質・構造調査、4) 古代交易を解明するための古代ガラスの材質・構造調査をおこなった。1) では種々の標準試料のラマンスペクトルを蓄積するとともに、いくつかの考古遺物のラマンスペクトルを収集した。2) ではコンピューテッドラジオグラフィによる透過撮影をおこない、古代官銭の形態的特徴をデジタルデータとして蓄積し、蛍光X線元素分析法により材質的特徴を蓄積した。3) では東アジアの古代塑像・壁画の材質・構造調査をおこない、製作技法や使用された顔料についての知見を得た。4) では日本では弥生

時代後期よりインドパシフィック系ビーズが日本に伝播・流通していたことが明らかとなった。

遺物の保存処理としては、当研究所で発掘した遺物の保存処理をおこなった以外に、1) 大型木製品の真空凍結乾燥法による保存処理法の開発研究、2) 超臨界点乾燥法による有機質遺物の新規保存処理法の開発研究をおこなった。1) では真空凍結乾燥工程中の収縮・変形をモニタリングするためにアコースティックエミッション法を適用することが可能であることを明らかにした。2) では薬剤含浸工程と乾燥工程を連続しておこなうことができるようにし、大幅な処理期間の短縮と保存処理後の安定性の向上を図ることができた。

遺構の保存処置については、基礎データ収集のために平城京域、飛鳥藤原京域および恭仁京等において礎石や景石などの材質および劣化状態などについて調査をおこなった。また、サーモグラフィを用いて冬季における礎石の温度変化を調査した。

この他、受託事業として重要文化財平原遺跡出土遺物の材質・構造調査と保存修理、重要文化財加茂岩倉遺跡出土銅鐸の材質・構造調査と保存修復処置、および京都市鹿苑寺出土修羅の保存処理をおこなった。また、「無機材質で構成される文化財資料の科学的調査—最近の測定機器における成果と問題点—」と題して保存科学研究集会を開催した。

#### ●保存修復工学研究室の調査と研究

遺跡の公開に向け、日本各地において保存修復・整備が進むなか、その適切な手法・指針を得るため、現状把握のためのアンケート調査を実施した。

本年度は、各種遺跡のなかでも、その復原整備・環境整備の手法に多様性のある官衙遺跡を対象とし、保存整備状況や公開の実態を把握することを目的として、各都道府県に調査票に基づくアンケート調査を行い、基礎的資料の収集に努めた。なお、調査票は、官衙遺跡の整備の実態が把握できるよう、整備終了・整備継続中の遺跡と未整備の遺跡、それぞれに対応する2種を作成した。

#### ●文化財情報研究室の調査と研究

文化財情報の電子化及びシステム構築については、研究会等においてそれらの研究成果を公表するとともに、所外の研究状況についての情報を収集し、今後のシステム構築、改良等の検討材料とした。11月には、公開シンポジウム「人文科学とデータベース」において、「全国遺跡データ

ベースの構築 2001年度の動向」と題し、遺跡データベースにおける重複遺跡の扱いについて研究成果を発表した。また、遺跡地図情報システム研究会及び遺跡情報管理検討会を開催し、最新の測量技術及び遺跡GIS等について研究報告、意見交換をおこなった。

文化財情報の電子化として、木簡、図書、全文、写真、遺跡、航空写真、軒瓦の各データベースにおいて、データの更新ならびに追加入力をおこないデータの充実に努めた。また、業務用データベースについては、各担当で作成したデータの追加をおこなった。なおデータベースへのデータ入力に際しては、事前のデータの整理が必要であるため、各種文献の調査等をおこないながらデータの拡充をおこなった。

写真データベースの基礎となる写真の電子化について、35mm、ブローニ、4×5、ガラス乾板については電子化を継続しておこなった。航空写真データベースにおいては、入力の基礎となる原フィルムからのマイクロフィルムの作成、マイクロフィルムからの電子画像の作成もおこなった。

#### ●国際遺跡研究室の調査と研究

国際遺跡研究室では、研究所が主催する外国との共同研究事業を円滑に実施するための調整と外国からの訪問者の対応を主たる業務としておこなっている。また、埋蔵文化財センターでは、国際協力事業団・国際交流基金等の機関の要請により、他機関が招聘した研究者に対しても研修事業をおこなっているが、研修内容や講師の選定などもコーディネートしている。2001年度は2件あり、中国人とモロッコ人研究者に研修をおこなった。

これら国際関係業務の他に、2001年度は、埋蔵文化財発掘技術者研修課程『一般課程』・『陶磁器調査課程』の2件の研修を担当し、また、数件出土土器に関する指導助言もおこなった。

## 国際学術交流

奈良文化財研究所では、現在、中国・韓国・カンボジア・チリの4カ国の研究機関と共同研究事業を実施している。

### ●中国社会科学院考古研究所との共同研究

アジアにおける古代都城遺跡に関する調査研究協力事業で、1996年度から昨年度まで漢長安城桂宮（後宮）の共同発掘調査を実施してきた。本年度は、相互に研究員を派遣し、発掘調査報告書の作成準備にとりかかった。また、公開講演会を開催し、劉慶柱所長を始めとする3名の中国側研究者に2001年春におこなった桂宮発掘調査結果、過去5年間の桂宮調査結果について講演いただき大変な好評をえた。漢長安城の発掘調査の収束に伴って、両研究所は新たな共同研究計画を模索し、唐長安城大明宮太液池の共同発掘調査を2001年度より5カ年計画で実施することで合意し協定書を取り交わした。本年度は、本格調査に備え発掘基準測量点の設置を兼ね現地に調査員を派遣した。

### ●中国遼寧省文物考古研究所との共同研究

遼寧省三燕時代の墳墓・都城関連遺跡出土遺物に関する共同研究で、本年度は、中国側が三燕文化関係の図録『三燕文物精粹』の作成にとりかかり、日本側も日本版図録の出版に向け翻訳に着手した。また、相互に研究者を派遣招聘して交流を図り、文物調査や遺跡踏査をおこなった。この共同研究は昨年度で協定期間が切れたため、双方が2002年度から2005年度までの4カ年計画で2期目の共同研究を実施することで合意し、協定書を取り交わした。

### ●河南省文物考古研究所との共同研究

2001年度から5カ年計画で開始した事業で、鞏義市大小黄冶、白川村に所在する唐三彩窯跡、およびその産品に関する共同研究である。本年度は、昨年から実施している窯跡分布調査を引き続いておこない、新たに窯跡2基を発見した。工事建設現場で発見された1基については、緊急調査を実施すると共に保存の措置を講じた。

当初計画どおり、本年度には、これまでに大小黄冶村でおこなわれた唐三彩窯跡の試掘調査や発掘調査で出土した唐三彩資料を収集整理し、図録として刊行するため、日中共同で作業に当たった。河南省博物院、鄭州市文物考古研究所、鞏義市博物館、鞏義市文物保護管理所、河南省文物

局の協力支援をえて、中国版『鞏義黄冶唐三彩』図録の刊行の運びとなった。秋には、河南省文物考古研究所孫新民所長を始めとする同所研究員5名を招聘し、この機会に公開研究会を開催し、孫所長、陳彦堂副研究員には、河南陶磁に関する講演をいただいた。



鞏義市大小黄冶唐三彩窯跡



鞏義市大小黄冶出土唐三彩片（鄭州市文物考古研究所蔵）

### ●韓国国立文化財研究所との共同研究

韓国国立文化財研究所とは、日本の都城ならびに百済・新羅王京の形成と発展過程に関する共同研究、生産遺跡に関する共同研究を実施している。この他、毎年短期であるが、両研究所は様々な分野の研究員を相互に派遣し、学術交流を図っている。本年度の前者の共同研究については、日本側研究者は新羅王京の発掘調査に、韓国側研究者は藤原宮の発掘調査に参加し、互いに意見を交換した。また、招聘期間中には、日本と韓国古代庭園に関する研究会を開き、国立慶州文化財研究所の兪洪植・呉承燕両氏には、新羅時代庭園跡の最新の調査成果について発表いただいた。後者の共同研究については、飛鳥池工房出土遺物の理解に資するため、新羅・百済の金属鑄造関係遺物と陶磁器の調査を実施し、韓国の研究者と共同で飛鳥池工房出土品を検討し、有意義な意見をいただいた。

### ●異なる気象条件下における不動産文化財の発掘技術及び保存に関する調査研究

日本国内とは大きく異なる環境条件のもとに位置する古代遺跡の発掘調査、および保存修復に関する調査研究をおこなった。カンボジア・アンコール遺跡に関連するタニ窯遺跡群の発掘調査・研究、チリ領・イースター島におけるモアイ石像をはじめとした石造文化財に関する調査研究を実施した。

アンコール文化遺産保護に関する研究協力の一環として実施してきたタニ窯跡の発掘調査は最終年度を迎え、遺物の整理を重点的に実施している。特に、次年度にはタニ窯跡の保存展示のための整備を計画しており、その方策の検討をおこなった。また、若手研究者の人材育成の事業を継続的に実施しており、今年度は3名の研究者を招聘し、遺跡の発掘調査、その保存整備と活用に関する技術的研修、さらに遺物保存の科学的手法の研修をおこなった。

チリ・イースター島におけるモアイ石像の保存に関する研究は、チリ国立文化財保護センターと共同で進めており、火山性凝灰岩の試験体を各種の保存材料で強化し、現地で暴露試験を実施中であり、その経過観測を実施した。特に、暴露試験試料の経年変化にともなう密度・比重、および含水能力の低下、表面の粗さ程度、圧縮強度、保存材料の劣化等に関する分析・測定をおこなった。その成果については、岩盤力学学会にて口頭発表している。また、現地では気象観測を継続して実施しており、データの収集をはかっている。他方ユネスコが実施予定のモアイ石像(テピトクラ遺跡)の

補修の際に、我々が実施中の暴露試験の成果を生かし 修復事業に協力する予定である。

### ●炳霊寺文物保管所と炳霊寺涅槃塑像の補修に関する共同研究

ダム建設にともなって移設された、長さ9メートルにおよぶ涅槃塑像には、北魏時代の塑像の表面にそれぞれ唐代と明代に塗り直された層があったが、移設に際しては軽量化するために、やむを得ず明代層と唐代層を取り除き、北魏の原作だけが残された。さらに塑像を1メートル大に分割して搬出し、保護してきたものである。そのまま30余年経って、2001年になって、ようやく塑像に対して保存修復の計画が立てられ、まず塑土や顔料の材質的・構造的な調査を実施した。分割された各塑像片の重量は数百Kgにもなり、それらの接合に際しては自重による崩壊防止に最大の注意を払った。接合材料には、土壌(塑土)の物性を変えることなく強度を増大させるエポキシ系の合成樹脂を利用した。すなわち、土壌のもつ吸放湿性を維持したまま、強度を何倍にも高める保存材料である。他方、接合部の補填整形には塑像本来の塑土の素材に合わせて、粘土に麦わら等のスサを混ぜ、これがなじむように一定期間放置したものを適用した。今年度はほぼ全体の接合と整形を完成させた。

## 在外研修の成果

### 文化財の公開活用をめぐる調査研究

松村恵司／飛鳥藤原宮跡発掘調査部

2001年7月2日から9月19日にかけてドイツ、イタリア、ギリシア、中国を訪れ、文化財の保存・活用に関する調査研究をおこなった。

ドイツではベルリンのペルガモン博物館をはじめ、シャルロッテンブルク宮殿内の先史・初期歴史博物館、フランクフルトの前・先史博物館において、博物館の展示方法を調査した。プロセイン帝国時代に発掘、収集した海外の大規模な建造物遺構を、館内に移設復元したペルガモン祭壇やアテナイ神殿、バビロンのイシュタル門、ミレトスの市場門などは圧巻であったが、本来の遺跡に戻して展示する必要性を痛感した。イタリア、ギリシアでは、主に古代遺跡の整備と活用手法の調査をおこなった。フォロ・ロマーノ、フォーリ・インペリアーリ、パラティーノの丘、ポンペイなどでは、広大な遺跡の露出展示が参考になった。案内板も道標もなく、見学者が自らガイドブックを手にしながら散策しないと遺跡を理解できない、という一見不親切な公開手法は、歴史教育を押し付け気味の日本の遺跡整備に対する反省材料となった。また古代ギリシアの植民都市であるシチリアのアグリジェント（世界遺産）では、「神殿の谷」に20あまりの神殿の廃墟が露出し、その整備が逐次進行していた。交通の不便なこの地に、世界各国から多くの観光客が訪れており、遺跡を活用した町おこしの実態や手法を調査することができた。中国では、シルクロードの起点となる西域の遺跡群を調査し、ギリシア・ローマに関連する遺物を多数確認した。漢長城の狼煙台や河倉城、高昌古城などの遺跡は、崩壊が進行して砂漠の砂に還りつつあり、滅びゆく歴史的建造物の姿と大自然の営為を前にして、修復整備の必要性の有無についても考えさせられた。

### 遺跡の保存整備と活用に関する研究

内田昭人／埋蔵文化財センター

今回の在外研究では、エジプト・シリア・ギリシャ・フランス・イギリスを訪問し、「遺跡の保存整備と活用に関する研究」をおこなった。国それぞれにより、気候風土、生活習慣、整備材料などが異なるため、まず、各国の文化の多様性を理解することに努めた。この多様性を踏まえて初めて、遺跡が保存整備され、活用が成されていること

の意味が理解できた。研究面では、派遣先の研究機関はもとより、外国の多くの研究者と交流を深めることが出来たことは、今後研究を進めていく上で、大きな収穫であった。研究者との文献資料の交換や、現地で遺跡の発掘現場・修復現場を見ながらの対話や議論、短期間であったため情報交換を成し得なかった部分については、後日電子メールのやりとりで解決していく約束ができたことなどである。こうした在外研究は日本への還元のみならず、海外との交流を深める上でも極めて有意義な制度であると考え。今後とも是非多くの人、特に還元性の高い若手研究者を海外に派遣して欲しいと思う。

### 環境考古学の自然科学的研究法の確立—特に動物遺存体の調査法—

松井 章／埋蔵文化財センター

2001年8月2日から12月22日まで、米国ハーバード大学考古学科の客員研究員として在外研究をおこなった。その間、国内およびカナダの関係諸機関を訪問し、親交を深めるつもりであったが、セプテンバー・イレブンスの際、地元、ボストンを飛び立った2機の旅客機が次々とハイジャックされ、ニューヨークのワールド・トレーディング・センターへ突入したため、それ以降の飛行機による国内旅行が煩わしくそして困難なものとなった。その結果、レンタカーを借りて近郊のニューイングランドを中心に、博物館や先住民関係の居留地、文化施設を訪問することとした。ようやく11月中頃から飛行場の検査態勢が緩和され、ネブラスカ州リンカーンで開催された大平原人類学会、ワシントンDCのスミソニアン研究機構の自然史博物館、モントリオールのマックギル大学などを訪問し、研究討議や講演をおこなうことができた。痛感したのはアメリカの大学や研究所の研究環境が、日本より格段に優れていることで、日本も早くアメリカ並みになってもらいたいものだ。

## 海外からの主要訪問者一覧

- 中国：陝西省文物局局长  
張 廷 皓／'01.4.9
- 中国：陝西歴史博物館副館長  
馮 庚 武／'01.4.9
- 中国：陝西省考古研究所副研究員  
金 憲 鏞／'01.4.9
- 中国：陝西省文物局副主任科員  
羅 文 利／'01.4.9
- 中国：秦始皇帝兵马俑博物館館長  
吳 永 琪／'01.4.9
- 中国：北京旭日文化交流センター  
張 颺／'01.4.9
- 韓国：圓光大学馬韓・百濟文化研究所  
金 鍾 文／'01.5.22～5.23
- 韓国：圓光大学馬韓・百濟文化研究所  
李 永 徳／'01.5.22～5.23
- 韓国：圓光大学馬韓・百濟文化研究所  
趙 圭 宅／'01.5.22～5.23
- イラク：イラク考古遺産庁調査研究局長  
Dr.Donny G.Youkhanna／'01.6.7
- 韓国：全北大学人文大学考古人類学科  
金 承 玉／'01.6.29
- 韓国：圓光大学人文大学考古美術科  
安 承 模／'01.6.29
- ドイツ：バイエルン州立記念建造物保存庁  
Maruchi Yoshida／'01.7.16～9.14
- カンボジア：東京芸術大学美術研究科修士  
課程（文部省国費留学生）  
ケオ キナル／'01.7.23～7.27
- ホンデュラス：ホンジュラス国立人類学歴史  
学研究所人類学調査部部長  
カルメン：フリア ファハルド カルドナ／'01.8.3
- ホンデュラス：ホンジュラス国立人類学歴史  
学研究所 総務部部長  
サウル アドルフォ プエツ／'01.8.3
- 中国：国立清華大学材料系及び工学系教授  
徐 統／'01.9.6～10.31
- チュニジア：国立文化遺産研究所長  
Mr. Ben Fraj Boubaker／'01.9.10
- 中国：浙江省文物考古研究所所長  
曹 錦 炎／'01.10.1
- 中国：浙江省文物考古研究所研究員  
王 明 達／'01.10.1
- 中国：浙江省文物考古研究所副研究員  
劉 斌／'01.10.1
- 中国：浙江省文物局文物保護与考古処幹部  
許 常 豊／'01.10.1
- 中国：浙江省古建築設計研究院院長  
李 小 寧／'01.10.1
- 中国：杭州市文物保護管理所副所長  
杜 正 賢／'01.10.1
- 中国：余杭市政府委弁幹部  
韓 兆 祥／'01.10.1
- 中国：良渚文化博物館  
葉 維 軍／'01.10.1
- 韓国：韓屋文化院 院長  
申 榮 勳／'01.10.1～'02.3.30
- バングラデシュ：文化省考古局チッタゴン  
地方局長  
モハメッド アリ／'01.10.19, '01.10.23
- インドネシア：文化観光省考古局登録・  
証明課課長  
グロホ・S・アナン／'01.10.19, '01.10.23
- ラオス：教育省ユネスコ国内委員会事務局  
長  
カムパーン ピーラサヴァーン／'01.10.19, '01.10.23
- モルジブ：国立言語・歴史研究所博物館ガイド  
アミナト カウサル／'01.10.19, '01.10.23
- モンゴル：モンゴル芸術文化大学社会学部教員  
ツェヴェーンドルジュ アルタントウヤ／  
'01.10.19, '01.10.23
- ネパール：ネパール観光局観光商品・資源  
開発課事務官 サンディーブ バスネット／  
'01.10.19, '01.10.23
- パキスタン：考古・博物館局（地方事務所）  
考古技師補  
アーマッド ナワズ／'01.10.19, '01.10.23
- フィリピン：遺産保護協会地域振興・広報  
課上席プロジェクト開発担当官  
ジョン チャールズP.セルドラン／  
'01.10.19, '01.10.23
- タイ：カンヤ学校ハットヤイウィタヤライ  
スンプーンクルカンヤ学校教員  
ウィチャイウォングスワン／'01.10.19, '01.10.23
- ソロモン諸島：ソロモン国立博物館博物館長  
ローレンス フォアナオタ／'01.10.19, '01.10.23
- 中国：西北農林科児技大学  
樊 志 民／'01.11.5
- 中国：河南省安陽市人民政府副秘書長  
李 陽 生／'01.11.6～11.17
- 中国：河南省安陽市計画委員会副主任  
楊 奇 才／'01.11.6～11.17
- 中国：河南省安陽市文化局副局长  
楊 育 慧／'01.11.6～11.17
- 中国：河南省安陽市建設委員会副主任  
李 俊 岭／'01.11.6～11.17
- 中国：河南省安陽市財政局副局長  
馬 廷 祥／'01.11.6～11.17
- 中国：河南省安陽市殷墟博物院苑主任  
杜 玖 明／'01.11.6～11.17
- 中国：河南省博物院陳列部副主任  
徐 雷／'01.11.6～11.17
- 中国：通訳  
林 媛 媛／'01.11.6～11.17
- 韓国：国立文化財研究所美術工芸研究室  
梁 潤 植／'01.11.10～12.8
- 韓国：国立扶余文化財研究所研究員  
李 圭 勳／'01.11.12～11.21
- 韓国：国立扶余文化財研究所研究員  
金 重 泰／'01.11.12～11.21
- フランス：パリ国立民俗博物館館長  
ミッシェル・コラルデル夫妻／'01.11.13
- フランス：リヨン自然史博物館館長  
ミッシェル・コッテ夫妻／'01.11.13
- フランス：日仏会館研修員、通訳  
ロラン・ネスプリーブ／'01.11.13
- ホンデュラス：ホンデュラス人類学・歴史  
学研究所長、ホンデュラス国立自治大学社会  
学部教授  
JOYA, Olga Marina／'01.11.14
- 中国：敦煌研究院文物保護研究所研究員  
孫 洪 才／'01.11.22
- 中国：敦煌研究院文物保護研究所研究員  
徐 淑 青／'01.11.22
- 中国：山東省文物考古研究所・研究室副主任  
劉 延 常／'01.11.26～11.30
- 中国：甘肅省博物館 副研究館員  
王 琦／'01.11.29
- 中国：甘肅省文物考古研究所助理館員（館員補佐）  
魏 文 斌／'01.11.29
- 韓国：牧園大学校 教授  
李 王 基／'01.11.30
- 韓国：建築士事務所 民家 所長  
金 石 淳／'01.11.30
- 韓国：建築士事務所 DADAM 所長  
朴 泰 淵／'01.11.30
- 韓国：奈良文化財研究所客員研究員  
金 王 植／'01.11.30
- 韓国：国立文化財研究所 研究士  
梁 潤 植／'01.11.30
- 韓国：瑞議建設 文化財 事業部  
宋 潤 柱／'01.11.30
- 韓国：明知大学校 建築学部 教授 韓国  
建築文化研究所長  
金 鴻 植／'01.11.30
- 韓国：韓国建築文化研究所研究員  
金 禹 雄／'01.11.30
- 韓国：韓国建築文化研究所研究員  
朴 哲 熙／'01.11.30
- 韓国：韓国建築文化研究所研究員  
趙 恩 我／'01.11.30
- 中国：山西省博物館 館長  
夏 路／'01.12.3

- 中国：山西省博物館 館長補佐  
劉 軍／'01.12.3
- 韓国：国立文化財研究所建築主事  
柳 星 烈／'01.12.6
- 中国：陝西省歴史博物館 館員  
劉 万 虹／'01.12.6
- ベトナム：ハノイ国家大学 歴史学科考古学専攻主任教授  
ハン・ヴァン・カン／'01.12.11
- 韓国：文化財廳昌徳宮管理所長 書記官  
朴 淵 根／'01.12.19
- 韓国：文化財廳宮園文化財課行政主事  
車 金 龍／'01.12.19
- 韓国：文化財廳宮園文化財課土木主事補  
権 点 洙／'01.12.19
- 韓国：文化財廳宮園文化財課林業主事補  
兪 悰 鎬／'01.12.19
- 韓国：文化財廳文化財技術課電気主事補  
禹 銀 鎬／'01.12.19
- 韓国：文化財廳宮中遺物展示館 林業主事補  
李 昭 妍／'01.12.19
- 韓国：京畿道立畿甸文化財研究院 研究員  
金 武 重／'02.1.9～1.17, '02.2.25～2.26
- 韓国：陝西省考古研究所・隋唐研究室主任  
張 建 林／'02.1.21
- 韓国：西安文物保護修復センター・研究員  
張 在 明／'02.1.21
- シリア：シリア文化省考古総局員  
ファッター ローラ／'02.1.22
- シリア：シリア文化省考古総局プロジェクト・マネージャー ガリ ラバア／'02.1.22
- シリア：シリア文化省考古総局技術主任  
タフォル カッセム／'02.1.22
- シリア：シリア文化省考古総局技術主任  
ヘザム バハー／'02.1.22
- シリア：シリア文化省考古総局建築主任  
サビク アンワル／'02.1.22
- レバノン：考古総局 考古学者  
セイフ アスアド／'02.1.22
- レバノン：考古総局 考古学者  
バダウィ アリ／'02.1.22
- エジプト：カイロ大学考古学部保存修復学科長  
マハーブ：ガマル・アブデル・マギード／'02.1.22
- エジプト：カイロ大学考古学部保存修復学科助講師  
ハッターフ ムハンマド・カマル／'02.1.22
- エジプト：考古最高評議会保存修復専門家  
アブデルハーレク・ムハンマド アブデル  
ハーフィズ／'02.1.22
- エジプト：考古最高評議会保存修復専門家  
シングル メドハト・アブデル ファターハ  
／'02.1.22
- エジプト：カイロ大学考古学部保存専門家  
エルハディーディー ラミヤ・アリーシャウキー  
／'02.1.22
- カンボジア：アプサラ 所長技術補佐  
エア・ダリス／'02.1.28～2.22
- フランス：フランス極東学院 研究員  
Bruno Bruguier／'02.1.29～1.30
- 中国：四川省教育次長  
汪 風 雄／'02.1.30
- 中国：雲南省教育次長  
周 益 群／'02.1.30
- 中国：陝西省教育次長  
張 雄 強／'02.1.30
- 中国：チベット自治区教育次長  
群 增／'02.1.30
- 中国：長春市教育長  
王 樹 彬／'02.1.30
- 中国：河北省教育庁 課長  
呂 武 印／'02.1.30
- 中国：教育部総務局 課長  
王 学 農／'02.1.30
- 中国：教育部国際局 課長補佐  
史 光 和／'02.1.30
- 中国：教育部国際局 課長補佐  
耿 淑 榮／'02.1.30
- イクロム：プロジェクト・マネージャー  
ジョセフ・キング／'02.2.15
- イコモス：イコモス木の委員会委員長  
デビッド・マイケルモア／'02.2.15
- ノルウェー：Director General,  
RIKSANTIKVAREN  
ニルス・マルステン／'02.2.15
- ドイツ：ドイツヘッセン州文化財保存局文  
化財調査官  
クリストファー・ヘンリヒセン／'02.2.15
- フィリピン：フィリピンユネスコ国内委員  
会文化遺産委員  
アウグスト・ヴィラロン／'02.2.15
- 中国：中国文物研究所総工程師  
付 清 遠／'02.2.15
- 韓国：文化財庁国立文化財研究所美術工芸  
研究室長  
金 奉 建／'02.2.15
- モロッコ：文化・通信省国際協力部長  
DKHISSI DRISS／'02.2.18～2.22
- 韓国：韓国政府派遣学生（文化財庁宋廟事  
務所長）  
禹 景 準／'02.3.5～3.7
- カザフスタン：カザフスタン共和国教育科  
学省 考古学研究所 所長  
カール、バイパコフ／'02.3.12
- 台湾：国立故宫博物院書画処処長  
王 輝 庭／'02.3.28
- 台湾：国立台湾大学図書館推広服務組 組長  
邱 婉 容／'02.3.28
- 台湾：国立歴史博物館 助手  
WU GUO CHUEN／'02.3.28
- 台湾：中央研究院歴史語言研究所室長  
陳 光 祖／'02.3.28

## 海外からの招聘者一覧

- 韓国：国立全南大学造形学科助教授  
白志星／'01.10.11～10.17
- 中国：遼寧省文物考古研究所所長  
王晶辰／'01.10.20～10.31
- 中国：遼寧省文物考古研究所技術保護部主任  
張悦／'01.10.20～10.31
- 中国：遼寧省文物考古研究所姜女石工作站站长  
楊榮昌／'01.10.20～10.31
- 中国：遼寧省文物考古研究所助理研究員  
王來柱／'01.10.20～10.31
- カンボジア：王立芸術大学卒業生  
Oum Sineth／'01.10.22～12.8
- カンボジア：王立芸術大学卒業生  
Ran Serey Leakhena／'01.10.22～12.8
- カンボジア：王立芸術大学卒業生  
Hay Hunleng／'01.10.22～12.8
- 韓国：釜山大学校人文大学考古学科研究助教授  
千羨幸／'01.10.25～11.15
- 中国：河南省文物考古研究所所長  
孫新民／'01.11.20～11.29
- 中国：河南省文物考古研究所副研究員  
陳彦堂／'01.11.20～11.29
- 中国：河南省文物考古研究所副研究員  
方燕明／'01.11.20～11.29
- 中国：河南省文物考古研究所副研究員  
賈連敏／'01.11.20～11.29
- 中国：河南省文物考古研究所副研究員  
代倫英／'01.11.20～11.29
- 韓国：国立文化財研究所所長  
趙由典／'01.12.14～12.18
- 韓国：国立文化財研究所学芸研究官  
姜大一／'01.12.14～12.18
- 韓国：文化財廳長  
盧太燮／'01.12.14～12.18
- 韓国：文化財廳 行政事務官  
金東永／'01.12.14～12.18
- 韓国：国立全南大学造形学科助教授  
白志星／'01.12.16～12.18
- カンボジア：王立芸術大学卒業生  
Loeung Ravathey／'02.1.14～2.15
- カンボジア：王立芸術大学卒業生  
Lam Sopheak／'02.1.14～2.15
- アメリカ：アメリカ合衆国スミソニアン  
研究機構フリーア美術館 研究官  
Blythe McCarthy／'02.1.19～1.27
- アメリカ：アメリカ合衆国スミソニアン  
研究機構サックラー美術館 主任学芸員  
Louise Cort／'02.1.19～1.27
- アメリカ：アメリカ合衆国スミソニアン  
研究機構材料・教育センター 主任研究員  
Pamela Vandiver／'02.1.19～1.28
- 韓国：国立文化財研究所学芸研究士  
林承慶／'02.1.21～2.8
- 韓国：国立慶州文化財研究所 新羅王京  
遺跡調査チーム長  
俞洪植／'02.1.26～2.8
- 韓国：国立慶州文化財研究所研究員  
呉承燕／'02.1.26～2.8
- 韓国：国立文化財研究所学芸研究官  
池炳穆／'02.1.28～2.3
- 韓国：国立文化財研究所学芸研究士  
朴亨彬／'02.1.28～2.3
- 韓国：国立昌原文化財研究所学芸研究士  
朴鐘益／'02.1.28～2.3
- アメリカ：チェイス アート サービス 代表  
Thomas Chase／'02.2.11～2.18
- オーストラリア：西オーストラリア海洋  
博物館 館長  
Ian MacLeod／'02.2.12～2.18
- 韓国：韓国国立海洋遺物展示館保存科学研究員  
金益柱／'02.2.12～2.18
- スウェーデン：ヴァーサ号博物館保存科学  
研究員  
Lovisa Dal／'02.2.12～2.18
- ハンガリー：ハンガリー国立博物館保存室長  
Andras Morgos／'02.2.12～2.18
- 中国：ユネスコ北京事務所文化遺産保護委員  
杜曉帆／'02.2.12～2.18
- 中国：炳靈寺文物保護研究所所長  
王享通／'02.2.12～2.25
- 中国：陝西省考古研究所 副所長  
尹申平／'02.2.15～2.25
- 中国：陝西省考古研究所助理研究員  
馬志軍／'02.2.15～2.25
- 中国：陝西歴史博物館 研究員  
申秦雁／'02.2.15～2.25
- 中国：陝西歴史博物館 館員  
白麗莎／'02.2.15～2.25
- 中国：中国文物研究所 副所長  
盛永華／'02.2.13～2.20
- 中国：中国文物研究所 文物保護技術研究  
センター 副主任  
嵇益民／'02.2.13～2.20
- 韓国：三星美術財団 湖巖美術館保存科学  
研究所 所長  
李午憲／'02.2.13～2.20
- 韓国：三星美術財団 湖巖美術館保存科学  
研究所 研究員  
金奎虎／'02.2.13～2.20
- 中国：中国社会科学院考古研究所碩士  
内モンゴ隊 隊員  
董新林／'02.2.15～3.15
- 中国：中国社会科学院考古研究所博士  
安陽隊 隊員  
岳洪彬／'02.2.15～3.15
- アメリカ：フリーア美術館主席研究官  
John Winter／'02.2.25～3.7
- 中国：中国社会科学院考古研究所研究員 所長  
劉慶柱／'02.3.4～3.15
- 中国：中国社会科学院考古研究所 研究員  
漢城隊 隊長  
李毓芳／'02.3.4～3.15
- 中国：中国社会科学院考古研究所碩士  
漢城隊 隊員  
張建峰／'02.3.4～3.15

## 奈文研研究者の海外渡航一覧

- 岩本 圭輔：ネパール  
'01.4.4～4.11 / ユネスコ世界遺産会議出席  
先方負担、在ネパール ユネスコ・カトマン  
ツ事務局
- 森本 晋：スウェーデン  
'01.4.22～5.1 / 「考古学におけるコンピュー  
タの応用」学会での発表 科学研究費
- 金田 明大：スウェーデン  
'01.4.23～5.2 / C A A 2 0 0 1 研究会にお  
ける研究発表及び参加 科学研究費
- 沢田 正昭：チリ共和国、アメリカ合衆国  
'01.4.23～5.4 / イースター島・モアイ石像  
現地保存のための火山性凝灰岩保存材料の耐  
候性に関する共同研究 運営費交付金
- 高妻 洋成：チリ共和国、アメリカ合衆国  
'01.4.23～5.8 / 「過酷気象条件下の遺跡調  
査と保存に関する共同研究」並びに「マプー  
チ族出土丸木舟の保存処理に関する共同研  
究」 運営費交付金
- 田辺 征夫：大韓民国・中華人民共和国  
'01.6.6～6.13 / 合同研究調査の打ち合わせ  
運営費交付金
- 小林 謙一：大韓民国・中華人民共和国  
'01.6.6～6.16 / アジアにおける古代都城  
遺跡・生産遺跡に関する調査研究 運営費交  
付金
- 松村 恵司：大韓民国  
'01.6.6～6.12 / 2002年開催「飛鳥・藤原京展」  
出陳交渉のため 運営費交付金
- 花谷 浩：大韓民国  
'01.6.6～6.12 / 2002年開催「飛鳥・藤原  
京展」出陳交渉のため 運営費交付金
- 山下信一郎：大韓民国  
'01.6.6～6.12 / 2002年開催「飛鳥・藤原  
京展」出陳交渉のため 運営費交付金
- 小池 伸彦：中華人民共和国  
'01.6.9～6.16 / アジアにおける古代都城遺  
跡に関する調査研究 運営費交付金
- 石橋 茂登：中華人民共和国  
'01.6.9～6.16 / アジアにおける古代都城  
遺跡に関する調査研究 運営費交付金
- 豊島 直博：中華人民共和国  
'01.6.9～6.16 / アジアにおける古代都城  
遺跡に関する調査研究 運営費交付金
- 牛嶋 茂：中華人民共和国  
'01.6.9～6.16 / アジアにおける古代都城  
遺跡に関する調査研究 運営費交付金
- 高妻 洋成：スウェーデン  
'01.6.9～6.17 / I C O M - cc W O A Mの  
参加と同国際会議での口頭発表 科学研究費
- 沢田 正昭：中華人民共和国  
'01.6.13～6.17 / 中国古代壁画の資料収集  
塑像の修復材料に関する硬化実験 科学研究費
- 清野 孝之：中華人民共和国  
'01.6.18～7.6 / アジアにおける古代都城遺跡  
の研究と保存に関する研究協力 科学研究費
- 深澤 芳樹：中華人民共和国  
'01.6.21～7.6 / 漢長安城報告書作製のため  
の資料調査 運営費交付金
- 肥塚 隆保：イギリス  
'01.6.30～7.6 / 国際ガラス会議 ( I C G )  
で口頭発表及び考古学部門委員会出席 科  
学研究費
- 松村 恵司：ドイツ連邦共和国・イタリア・  
ギリシャ・中華人民共和国  
'01.7.2～9.19 / 古代鋳銅技術に関する研究  
文部科学省 学校教育振興費・在外研究員等旅費
- 肥塚 隆保：中華人民共和国  
'01.7.9～7.15 / 日中唐墓壁画保存修復研究  
成果発表会の参加、発表ならびに資料収集  
科学研究費
- 沢田 正昭：中華人民共和国  
'01.7.11～7.15 / 中国唐代壁画に関する国際  
会議の開催、口頭発表。共同研究打ち合わせ、  
及び資料収集 科学研究費
- 内田昭人：エジプト・シリア・ギリシャ・  
フランス・イギリス  
'01.7.16～10.12 / 遺跡の保存整備と活用に  
関する研究 文部科学省 学校教育振興費・  
在外研究員等旅費
- 松井 章：大韓民国  
'01.7.19～7.21 / 新石器文化研究会におい  
での発表のため 科学研究費
- 西村 康：イタリア共和国  
'01.7.21～7.31 / 埋没考古・美術資料の所  
在確認および採取技術の検討 科学研究費
- 黒崎 直：中華人民共和国  
'01.7.22～7.29 / 東アジアにおける生産遺  
跡の調査研究 運営費交付金
- 巽 淳一郎：中華人民共和国  
'01.7.22～7.29 / 東アジアにおける生産遺  
跡の調査研究 運営費交付金
- 松井 章：アメリカ合衆国  
'01.8.2～12.21 / 環境考古学の自然科学的  
研究法の確立 文部科学省学校教育振興費・  
在外研究員等旅費
- 西村 康：ベトナム共和国  
'01.8.4～8.12 / ホイアン遺跡内の地中レー  
ダー探査 昭和女子大学
- 杉山 洋：ベトナム共和国・カンボディア王国  
'01.8.4～8.13 / アンコール文化遺産保護  
共同研究現地調査のため 運営費交付金
- 村上 隆：アメリカ合衆国  
'01.8.18～8.26 / スミソニアン研究機構との  
共同研究「アジア地域における陶磁器の流通  
に関する自然科学的研究」の研究打ち合わせ  
科学研究費
- 町田 章：中華人民共和国  
'01.8.20～8.29 / 中国社会科学院との共同  
研究 運営費交付金
- 金子 裕之：中華人民共和国  
'01.8.20～8.22 / 中国社会科学院考古研究  
所との国際共同研究 運営費交付金
- 村田 健一：ヴェトナム社会主義共和国  
'01.8.21～8.26 / フエ遺跡の歴史的建造物  
群の保存工学調査 科学研究費
- 沢田 正昭：中華人民共和国  
'01.8.24～9.20 / クムトラ千仏洞遺跡調査  
(ミッション) のため ユネスコ北京事務所
- 花谷 浩：大韓民国  
'01.9.2～9.7 / 扶余における生産遺跡と関連  
遺物の調査 運営費交付金
- 玉田芳英：大韓民国  
'01.9.2～9.7 / 扶余における生産遺跡と関連  
遺物の調査 運営費交付金
- 井上直夫：大韓民国  
'01.9.2～9.7 / 扶余における生産遺跡と関連  
資料の撮影のため 運営費交付金
- 清水重敦：大韓民国  
'01.9.2～9.7 / 日韓都城遺跡に関する国際  
研究 運営費交付金
- 箱崎和久：大韓民国  
'01.9.2～9.15 / 日韓都城遺跡に関する国際  
研究 運営費交付金
- 杉山 洋：カンボディア王国  
'01.9.10～9.13 / 招聘者選考 運営費交付金
- 木村 勉：ドイツ連邦共和国  
'01.9.11～9.23 / 歴史的木構造に関する  
シンポジウム出席及び産業遺跡保存に関  
する現地調査 科学研究費
- 高妻洋成：中華人民共和国  
'01.9.14～9.23 / 国際岩石力学学会・国際  
石造文化財研究会出席 科学研究費
- 沢田正昭：中華人民共和国  
'01.9.15～9.20 / 国際岩石力学学会・国際  
石造文化財保存研究会委員会出席、及び国際  
石造文化財保存研究会参加並びに研究発表  
科学研究費
- 西村 康：オーストリア共和国  
'01.9.17～9.25 / 第4回国際遺跡探査学会  
出席、研究成果発表 科学研究費

- 小野 健吉：ホンジュラス共和国  
'01.9.26～10.4／第2回コパン遺跡保存会議出席 運営費交付金及びホンジュラス国立人類学歴史学研究所
- 森本 晋：ホンジュラス共和国  
'01.9.26～10.4／第2回コパン遺跡保存会議出席 運営費交付金及びホンジュラス国立人類学歴史学研究所
- 高瀬要一：大韓民国  
'01.10.11～10.19／現地調査「東アジアにおける古代庭園遺跡の調査研究」 科学研究費
- 小野健吉：大韓民国  
'01.10.11～10.19／現地調査「東アジアにおける古代庭園遺跡の調査研究」 科学研究費
- 高妻洋成：大韓民国  
'01.10.16～10.19／日韓科学協力事業（日本学術振興会）合理的な、木製文化財の生物劣化防止に関わる点検・維持管理技術に関するセミナーの参加と研究発表 日本学術振興会
- 沢田正昭：フランス  
'01.10.17～10.23／国際セミナー「日本における文化財・文化遺産、その歴史とアイデンティティ」講演、出席のため ルーブル美術館
- 田辺 征夫：中華人民共和国  
'01.10.18～10.21／日中共同発掘調査（唐長安城太液池発掘調査）打ち合わせ 運営費交付金
- 小澤 毅：中華人民共和国  
'01.10.18～10.21／日中共同発掘調査（唐長安城太液池発掘調査）打ち合わせ 運営費交付金
- 金子 裕之：中華人民共和国  
'01.10.18～10.21／日中共同発掘調査（唐長安城太液池発掘調査）打ち合わせ 運営費交付金
- 内田 和伸：中華人民共和国  
'01.10.18～11.3／日中共同発掘調査 運営費交付金
- 中島 義晴：中華人民共和国  
'01.10.18～11.3／日中共同発掘調査 運営費交付金
- 巽 淳一郎：中華人民共和国  
'01.10.26～11.3／東アジアにおける生産遺跡の調査研究協力 運営費交付金
- 川越 俊一：中華人民共和国  
'01.10.26～11.3／東アジアにおける生産遺跡の調査研究協力 運営費交付金
- 玉田 芳英：中華人民共和国  
'01.10.26～11.3／東アジアにおける生産遺跡の調査研究協力 運営費交付金
- 金田 明大：中華人民共和国  
'01.10.26～11.3／東アジアにおける生産遺跡の調査研究協力 運営費交付金
- 牛嶋 茂：中華人民共和国  
'01.10.26～11.3／東アジアにおける生産遺跡の調査研究協力 運営費交付金
- 深澤 芳樹：大韓民国  
'01.11.4～11.14／韓半島におけるタキ技法の実態を調査・検討するため 科学研究費
- 高橋 克壽：大韓民国  
'01.11.21～11.24／2001年度文化財研究国際学術大会に出席（発表のため）大韓民国文化財庁国立文化財研究所
- 森本 晋：スペイン・フランス  
'01.11.24～12.3／「文化遺産保護に関するセミナー」に出席・保存手法に関する資料収集
- 小林 謙一：大韓民国・中華人民共和国  
'01.12.2～12.12／東アジアにおける武器・武具の比較研究 科学研究費
- 安田龍太郎：大韓民国  
'01.12.10～12.15／生産遺跡に関する国際研究 運営費交付金
- 小池 伸彦：大韓民国  
'01.12.10～12.15／生産遺跡に関する国際研究 運営費交付金
- 豊島 直博：大韓民国  
'01.12.10～12.15／生産遺跡に関する国際研究 運営費交付金
- 村田 健一：大韓民国  
'01.12.10～12.22／日韓都城遺跡に関する国際研究 運営費交付金
- 杉山 洋：カンボディア王国  
'01.12.13～12.20／アンコール文化遺産保護共同研究現地調査のため国際会議出席 運営費交付金
- 高瀬 要一：大韓民国  
'01.12.16～12.18／東アジアにおける古代庭園遺跡の調査研究 科学研究費
- 小野 健吉：大韓民国  
'01.12.16～12.18／東アジアにおける古代庭園遺跡の調査研究 科学研究費
- 高橋 克壽：大韓民国  
'01.12.19～12.22／「墳墓副葬品から見た古代日韓の地域間交流と社会変化についての研究」の為の資料についてレビューを受ける 科学研究費
- 井上 和人：大韓民国  
'02.2.13～2.20／資料収集 科学研究費
- 杉山 洋：カンボディア王国  
'02.2.26～3.3／アンコール文化遺産保護共同研究現地調査 運営費交付金
- 森本 晋：カンボディア王国  
'02.2.26～3.3／アンコール遺跡群タニ窯跡出土資料整理 運営費交付金
- 西村 康：カンボディア王国  
'02.2.28～3.5／石造遺物と窯跡の保存科学的処理の実地検討 運営費交付金
- 肥塚 隆保：カンボディア王国  
'02.2.28～3.5／石造遺物と窯跡の保存科学的処理の実地検討 運営費交付金
- 松井 章：中華人民共和国  
'02.3.3～3.7／中国の遺跡から出土した古代犬骨の形態的計測 科学研究費
- 清水 重敦：中華人民共和国  
'02.3.6～3.12／中国における建造物保存・修復に関する現地見学及び資料収集 科学研究費
- 高瀬 要一：台湾  
'02.3.7～3.11／東アジアにおける古代庭園遺跡の調査研究 科学研究費
- 沢田 正昭：オーストリア共和国  
'02.3.10～3.15／ウィーン考古学研究所において考古学関連情報収集 科学研究費
- 西村 康：オーストリア共和国  
'02.3.10～3.15／探査関連情報収集 科学研究費
- 森本 晋：フランス  
'02.3.14～3.22／アンコール遺跡群の調査についてフランス極東学院との協議及び資料収集 運営費交付金
- 高瀬 要一：中華人民共和国  
'02.3.15～3.22／東アジアにおける古代庭園遺跡の調査研究 科学研究費
- 小野 健吉：中華人民共和国  
'02.3.15～3.22／東アジアにおける古代庭園遺跡の調査研究 科学研究費
- 光谷 拓実：アメリカ合衆国  
'02.3.19～3.25／全米考古学会にて研究発表 科学研究費
- 松井 章：大韓民国  
'02.3.20～3.24／金海貝塚出土の動物遺存体の研究、DNAおよび炭素・窒素同位体分析のための試料サンプリングのため 科学研究費
- 杉山 洋：ヴェトナム社会主義共和国  
'02.3.27～3.30／アンコール文化遺産保護共同研究関連資料の調査 運営費交付金

## 公開講演会

### 第88回公開講演会 2001年6月16日

#### ◆箱崎和久：復原された東院庭園隅楼

2001年3月に竣工した東院庭園隅楼について、発掘調査の概要、復原の経過、建物のみどころなどについて解説した。

平城宮東院の東南隅に建つ、隅楼とよばれる掘立柱建物は、1967年の発掘調査で八角柱に頑丈な根固めを施した巨大な柱穴を発見したため、以来、平面八角形の楼閣と考えられてきた。1989年の復原模型製作に際する検討では、身舎2×2間+四面庇の建物としたが、1997年の発掘調査で、身舎の北と西だけに庇を出すL字形の平面と判明した。この特異な平面を、平等院鳳凰堂翼楼のような回廊隅部を切り取ったものとみて、2階建て以上の楼閣と考えた。しかし、柱配置が対称でないことなどから、平面を3×2間の東西棟に2×1間の突出部をもつと解釈した。また、床の痕跡もないことから、1階を土間として庭園の園路の一部となるような定点とし、2階から東院庭園および隣接する阿弥陀浄土院庭園の眺望を楽しむ施設と想定して復原設計をおこなった。

#### ◆清野孝之：よみがえる浄土世界—阿弥陀浄土院の発掘—

法華寺阿弥陀浄土院は、法華寺寺域西南隅、平城京左京二条二坊十坪に位置し、2000年3月から4月にかけて、平城宮跡発掘調査部が発掘調査をおこなった。その結果、浄土庭園のさきがけとなる園池遺構を検出し、調査後に国史跡に指定された。

講演では、発掘調査の成果に加え、調査後におこなわれた池堆積土・埋土の土壌分析や、調査区周辺の地中レーダー探査の結果もあわせて報告した。土壌分析の結果、園池周辺の植栽や池の変遷を知る手がかりを得た。また、地中レーダー探査により、下層池の存在や建物の範囲が判明した。特に、遺構が上層と下層に分かれることは、発掘調査成果の解釈に大きな示唆を与える成果で、下層遺構は法華寺外嶋院または中嶋院とよばれた施設にあたる可能性があるものと考えた。こうした成果をふまえて、阿弥陀浄土院の歴史的意義について論じた。

### 第89回公開講演会 2001年11月3日

#### ◆山下信一郎：木簡が語る藤原京と大宝律令

今年は、大宝律令が701～702年にかけて施行されてから1300年記念の年である。周知のように大宝律令は、飛鳥浄御原令にかわるものとして編纂された、律と令を備えた我が国初の本格的法典であり、日本律令国家建設の掉尾を飾るものである。では、唐の最新かつ緻密な法典を取り入れた律令国家の役人は、律令をうまく運用できたのだろうか。「律令を定めたがわずかに一、二を行うのみ」との当時の悲観的な見方があるが、おおむね順調に施行されていったとみるのが普通である。しかし、律令施行直後の実体を知りうる一次史料は、正倉院に伝来した大宝の戸籍ぐらいであった。かかる状況において出土した新史料が、藤原京左京七条一坊西南坪の木簡約5000点である。内容は皇族・貴族との物品のやりとりを示すもの、宮から物品を搬出する許可申請に関するもの、役人の考課に関わるものなど豊富で、中務省や衛門府に関わる木簡群である。大宝律令施行当初の行政の実体を生々しく伝える新資料の出現は、京内官衙という都城制の展開ともからみ、今後、大きな議論を呼ぶものとして注目されよう。

#### ◆高妻洋成：古代の証人「木簡」を次の世代へ

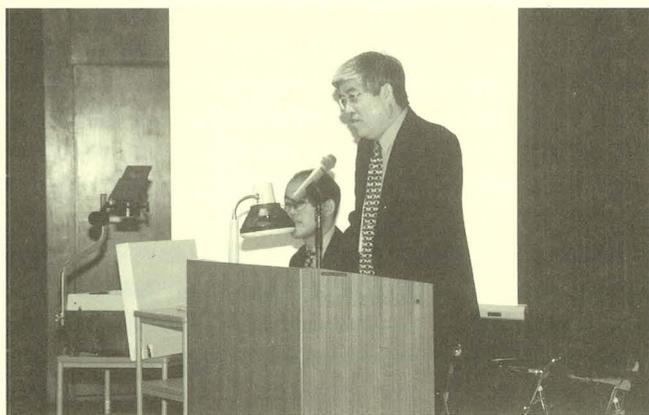
考古遺物の保存処理の中でも特殊な位置をしめる「木簡」の保存について平易な解説を加えながら講演をおこなった。木簡は砂漠のように極度に乾燥した環境かあるいは地下水域下や海底などの水漬けの環境で見つかる。木簡の墨書は鮮明に残っているものもあれば、ほとんど消えかけているものもある。このような不鮮明な墨書を判読するために、赤外線カメラなどが用いられている。水浸状態で見つかる木簡の墨書は木材表面にごくわずかに墨が残っているに過ぎず、手でこすっただけで消えてしまうものも多い。また、埋没中に確実に腐朽が進行しており、自然乾燥をおこなうと修復不可能なほどに収縮・変形してしまうこともある。このような劣化状態にある木簡は真空凍結乾燥法や高級アルコール法などにより保存処理がおこなわれるが、処理法の選択については劣化状態や木取りの向きなど、個々に応じておこなわれている。保存処理の施された木簡の収蔵・展示については、墨書が消失しないような環境を整えることが必要であり、さらなる研究を要するものである。

## 日中共同研究講演会

奈良文化財研究所は中国社会科学院考古研究所と1996年に友好共同研究議定書を結び、漢長安城の共同調査を実施してきた。予定の調査は終了し、あとは報告書の刊行を待つだけである。このほど来日した劉慶柱所長以下の研究者は、3月9日(土)に、これまでの発掘成果について、講演をおこなった。

内容は劉慶柱所長「漢長安城桂宮出土の玉牒研究」、李毓芳教授「漢長安城桂宮の発見と研究」、張建峰所員「漢長安城桂宮第4号建築遺構の発掘」である。スライドなど用いた講演は、分かりやすいと好評であった。なかでも、桂宮発見の玉牒は、日中を含めて初公開であり、新の王莽が泰山で封禪を試みたことを裏づける貴重な内容と共に、専門家の驚きを誘っていた。

なお2001年度には協定を再締結し、発掘調査の場所も唐大明宮の太液池遺跡に変わるなど共同研究は新段階に入っている。



漢長安城日中共同発掘調査記念講演会  
(中国社会科学院考古研究所 劉慶柱氏講演風景)

## 発掘調査現地説明会

- ◆ 2001年6月17日(日)  
平城第325次(興福寺中金堂)発掘調査  
平城宮跡発掘調査部史料調査室 馬場 基  
参加者:2,000名 調査面積:1,836㎡
- ◆ 2001年6月30日(土)  
飛鳥藤原第115次(藤原京左京七条一坊西南坪)発掘調査  
飛鳥藤原宮跡発掘調査部 主任研究官 内田 和伸  
飛鳥藤原宮跡発掘調査部 史料調査室 山下信一郎  
参加者:1,300名 調査面積:1,950㎡
- ◆ 2001年10月6日(土)  
飛鳥藤原第116次(石神遺跡第14次)発掘調査  
飛鳥藤原宮跡発掘調査部考古第二調査室 石橋 茂登  
参加者:600名 調査面積:480㎡
- ◆ 2001年12月8日(土)  
平城第336次(名勝旧大乘院庭園)発掘調査  
平城宮跡発掘調査部考古第二調査室 神野 恵  
参加者:180名 調査面積:370㎡
- ◆ 2002年3月16日(土)  
平城第326次(朝集殿院南門)発掘調査  
平城宮跡発掘調査部遺構調査室 平澤麻衣子  
参加者:330名 調査面積:1,050㎡
- ◆ 2002年3月23日(土)  
飛鳥藤原第117次(藤原宮大極殿院東回廊・東殿・大型礎石建物)発掘調査  
飛鳥藤原宮跡発掘調査部史料調査室 山下信一郎  
参加者:520名 調査面積:南区510㎡/北区1,245㎡



現地説明会(大乘院庭園)

## 研究集会

### ◆飛鳥白鳳の瓦づくり

#### —山田寺式軒瓦の成立と展開(2)—

2001年6月23～24日

畿内と西日本を中心とした前年度の研究につづき、今年度は東日本の山田寺式軒瓦の成立と展開について研究集会を開催した。

その結果、皇極・孝徳朝(7世紀中頃)の狭義の山田寺式は畿内からあまり広がらないこと、古手の山田寺式の種類である檜隈寺式は安芸・横見廃寺と下総・龍角寺の、西と東の2ヶ所に波及すること、東日本ではその後天武朝になって山田寺が波及し、いわゆる白鳳期における氏寺の爆発的増加の一翼を担うようになったこと、陸奥へは関東から7世紀末～8世紀初頭に波及したことなどが判明した。参加者は約100名であった。(毛利光俊彦)

### ◆古代瓦研究会 2001年度検討会

#### —坂田寺式単弁軒丸瓦の諸問題—

2001年11月10日

2000・2001年度に実施した山田寺式軒瓦の研究を補うために、検討会を11月10日に開催し、飛鳥地域と、これと密なつながりをもつ大和・尼寺廃寺や紀伊及び尾張の坂田寺式単弁軒丸瓦を取り上げた。

その結果、飛鳥地域では、蓮弁は肉厚なものから線的なものへ、蓮子は1+8から1+4に変化するらしいこと、年代は伴出した土器などから640～660年であること、大和・尼寺や尾張への波及はやや遅れること、尾張では7世紀第4四半期に地域的広がりをみせることなどが判明した。参加者は約40名であった。(毛利光俊彦)

### ◆遺跡GIS研究会

2001年11月16日

埋蔵文化財センター文化財情報研究室では、2001年11月16日の午後、遺跡GIS研究会を「測量計測技術と遺跡GIS」のテーマのもと開催した。本年で第6回目となるこの会は、GIS(地理情報システム)の考古学分野での応用を研究する会で、研究発表のほか、機器やソフトの展示もおこなったので盛会であった。

研究発表は、国際日本文化研究センターの森洋久氏が「GLOBALBASE:中心をもたない歴史地理情報システム」、国際航業の本郷賢兒氏が「レーザスキャナによる文化財の計測」、倉敷紡績株式会社の桜井靖久氏が「市

販デジタルカメラによる写真計測システムについて」、京都埋蔵文化財研究所の宮原健吾氏が「オルソ画像と遺跡調査への応用」、奈良大学の泉拓良氏が「レバノンでのGIS考古学の実践」をおこなった。

簡便でありながら精度の高い各種システムの開発が進んでいることがよくわかり、文化財関連分野での応用例もより高度なものが見られるようになった。(森本 晋)

### ◆保存科学研究集会

2001年12月18日

「無機材質で構成される文化財資料の科学的調査—最近の測定機器における成果と問題点—」と題して保存科学研究集会を開催した。文化財資料の科学的調査は古くからおこなわれてきたが、近年になり測定機器の多様化と測定技術の進歩、さらにコンピュータの導入により自動化され迅速に多数の資料の測定が可能となってきた。しかし、一方では得られたデータの解釈等に問題点が指摘されてきている。本研究集会では、その解釈において問題点が指摘されている鉛同位体比法と、広く文化財の世界に普及し、一般化している蛍光X線分析法、および最近開発されているXRF/XRD同時分析システム、携帯型蛍光X線分析装置、高エネルギー蛍光X線分析法の利用、および将来性が期待されるレーザーラマン分光分析法に関する諸問題とその対策等について討論をおこなった。研究集会では、それぞれの分析法についての報告がおこなわれ、標準試料の重要性、検出限界の認識、測定対象自体のもつ分析の制約などに関する討論がおこなわれた。文化財資料の分析では、標準資料を用いて分析精度を検証すること、測定法を個々の資料に対して工夫をすることが必要であること、得られた結果に対して十分吟味する必要があることなど、深く議論をおこなえたことはきわめて意義深い。今後は、これまで利用されてきている分析法に加え、新たに開発される分析法に対しても、これらの知見を活かしていくことが重要である。(塚塚隆保)

### ◆官営工房研究会

2001年12月25日

百万塔の工房に関する研究会以来、通算で10回めを数える。今回は上原真人氏(京都大学)の「初期瓦生産とミヤケ」と題する報告をめぐって、まず館野和己氏(奈良女子大学)のコメントをいただいた後、活発な討論をおこなった。官営工房とは何かという根本的な課題とともに、考古学と文献史学のミヤケに

対する理解の違いが浮き彫りになった。また、今年度は、『官営工房研究会会報』第7号を刊行した。(渡辺晃宏)

### ◆古代官衙・集落と墨書土器

#### —墨書土器の機能と性格をめぐって—

2002年1月24～25日

1996年から、在地社会における律令国家支配の実態について、考古学・文献史学・建築史学などの諸分野の研究者が集まって共に考える場として研究集会を続けている。昨年度の1月24・25日の両日には、第6回目の研究集会を「古代官衙・集落と墨書土器—墨書土器の機能と性格をめぐって—」というテーマで開催した。参加者は約100名。報告者とタイトルは、郷堀英司「東国集落と墨書土器—房総を中心に—」、佐藤浩司「西国における墨書土器の様相—北部九州を中心に—」、小西昌志「北陸荘園と墨書土器—横江庄の発掘成果から—」、石毛彩子「地方官衙と墨書土器I—駿河国志太・益頭郡衙と墨書土器—」、山中敏史「地方官衙と墨書土器II—郡衙による食器管理と供給—」、高橋学「地方官衙と墨書土器III—城柵官衙と墨書土器

出羽国北半の事例を中心に—」、巽淳一郎「都城出土墨書土器の性格」、川畑誠「使用痕跡から見た墨書土器の機能」、三上喜孝「文献史学から見た墨書土器の機能と役割」である。これらの報告をふまえ、墨書土器がいかなる機能を有していたか、遺跡の性格が墨書土器にどのようなように反映されているか、墨書土器から在地社会のどのような実態を明らかにしうるのか、などについて討議した。(山中敏史)

### ◆わが国鑄銭技術の史的検討

2002年2月23～24日

飛鳥池遺跡の富本銭土壙出土品から復原した富本銭の鑄銭技術を、和同開珎や中世模鑄銭、近世の寛永通寶の鑄銭技術と比較研究する目的で開催した研究集会である。各地で鑄銭遺跡の調査研究に携わっている考古学研究者、鑄造技術者、古代史研究者約30名が集い、わが国の鑄銭技術の系譜について議論した。その結果、富本銭の鑄銭関係遺物が、近世の寛永通寶の銭座絵巻に見える道具や鑄銭場出土遺物に類似し、富本銭の鑄銭技術がかなり完成した姿で出現する事実や、和同開珎の発行時になされた技術革新の実態が明らかになった。研究報告は以下の通り。柴原永遠男「鑄銭司の組織と生産体制」、松村恵司「富本銭鑄銭技術の復原」、青島啓「長門・周防鑄銭司の鑄造関係遺物」、小池伸彦「平城京の和同開珎

鑄銭関係遺物)、原田香織「平城京の神功開寶鑄銭関係遺物」、山本雅和「平安京八条院町の鑄銭関係遺物」、嶋谷和彦「中世堺の鑄銭関係遺物」、神谷正義「寛永通寶鑄銭場の鑄銭関係遺物」、酒井清治「中国の銭范と鑄銭技術」、高橋照彦「日本における銭貨の原料調達の変遷」、伊藤博之「和同開珎鑄造実験の成果と課題」、小泉武寛「富本銭の鑄造実験に向けて」。(松村恵司)

#### ◆年輪年代学の研究集会

2002年3月17日

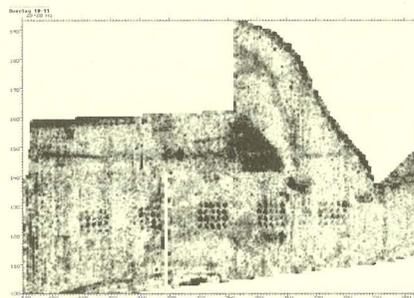
当研究所が開発した年輪年代法の応用研究の成果は、わが国の考古学、建築史、美術史の編年研究に大きな影響を与えつつある。そこで、本年度は3月17日に近畿圏に在住する考古学研究者約40名の参加を得て、年輪年代の現状を報告し、考古学サイドとの忌憚のない意見交換を行って、考古学などの編年研究においてどのように年輪年代を使っていけばいいのか、本研究集会はその方向を探るための開催となった。参加者の多数の意見は、年輪年代法そのものは認めるとして、考古学現場にどう組み入れていくかに焦点が集まった。(光谷拓実、深澤芳樹)

### 文部科学省科学研究費助成研究

#### ◆考古学の総合的研究

代表者・沢田正昭 COE研究拠点形成基礎研究 継続

地中レーダー利用の探査を中心に電気探査や磁気探査法による探査データを完成。植物動物遺存体データベースの作成、土壌微細形態学の研究、動物遺存体の現生骨格標本の充実。現生ヒノキの年輪データと気候データとの応答関係から古気象復元研究のための古気候復元モデルの作成。無機質・有機質遺物の材質・構造の研究、古代製品の流通・交易及び科学技術の伝播などに関する解明。



地中レーダー探査でとらえた下高橋官衛遺跡の正倉院建物



「COE」一般公開講演会：最新の考古学事情 (奈良県新公会堂)

#### ◆東大寺所蔵聖教文書の調査研究

代表者・綾村 宏 基盤研究(A)(1)新規

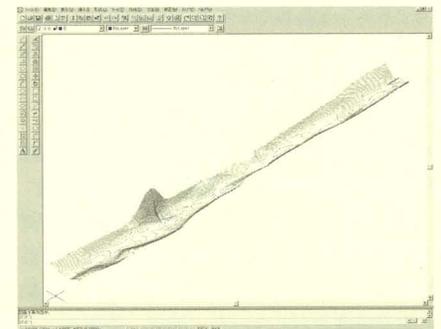
東大寺図書館収蔵庫にある未整理の聖教文書群の調査研究である。惣寺、塔頭、その他から図書館に集められた聖教文書函が約100函以上あり、その多様な資料群の内容把握と、目録作成を目的とする。量的に膨大であるので、情報機器を利用して目録作成をおこなっており、今年度は長持函2合を調査した。内容的には、近世の法会関係文書が主であった。

#### ◆GISを用いた古代都城の用排水系統に関する総括的研究

代表者・田辺征夫 基盤研究(A)(2)継続

本研究は3年目をむかえ、4月にはスウェーデンのピイスビーで開催された国際学会 Computer Applications and Quantitative method in Archaeology において昨年度までの研究成果を発表した。今年度までは、溝形状のデジタルデータの入力作業を進めている。

また、平城京域76葉におよぶ1000分の1地形図の等高線抽出図の原図を作成し、デジタル標高モデルの作製を進めている。また、地形図中に平城京条坊想定線、発掘調査位置、検出条坊遺構、遺存地割および小字名を表示した平城京総合地図製作作業を進め、次年度の刊行に備えている。



平城京条坊側溝の3次元モデル化

#### ◆唐代古墳壁画の転写・輸送・保存修復に関する科学的研究

代表者・町田 章 基盤研究(A)(2)継続

壁画顔料の材質分析・壁体強化法・保存環境調査などの総合的な共同研究をおこなっている。光、特に紫外線に対する退色試験を継続測定、壁画は複数の色を混ぜた混色の実態を究明し、江戸時代以来の伝統的材料にみられていることがわかってきた。また、壁体の強化材料の開発とその施工法を開発した。

#### ◆アジア地域における陶磁器の流通に関する自然科学的研究

代表者・沢田正昭 基盤研究(A)(2)継続

スミソニアン研究機構・フリーヤール美術館の陶磁器コレクションのうち、クメール陶器について化学分析的共同研究をおこなった。他方、国内においては陶磁器の研究者が一堂に会して、分析の成果をもとに活発な討議を展開し、考古学と自然科学分野からの研究成果をクロスチェックしながら検証している。

#### ◆動物考古学的手法による日本、および周辺地域の古代家畜史の研究

代表者・松井 章 基盤研究(B)(1)継続

3年計画の2年目を迎えて、研究は佳境に入りつつある。初年度から韓国の原三国時代の家畜試料の研究をおこない、釜山大学との共同研究で著名な金海貝塚の報告書を作成中である。さらに3月には中国社会科学院を訪問し、イヌおよびイノシシ・ブタの研究をおこなった。

#### ◆東アジアにおける古代庭園遺跡の調査研究

代表者・高瀬要一 基盤研究(B)(2)継続

4カ年計画の第2年度。韓国、中国、台湾の下記11カ所の発掘遺構・現存庭園・関係資料について現地調査をおこない、情報収集と研究協議をおこなった。韓国 慶州市：九黄洞苑池遺跡・王京都市遺跡園池(2カ所)・感恩寺伽藍園池、大邱市：孤山池、益山市：弥勒寺跡方池 中国 広州市：南越国宮署遺址園池、昆明市：円通寺伽藍園池、西安市：唐長安城大明宮太液池 台湾 台北市：故宮博物院、板橋林家庭園

#### ◆富本銭と和同開珎の系譜をめぐる比較研究

代表者・松村恵司 基盤研究(B)(2)新規

富本銭と和同開珎の系譜的關係を明らかにし、わが国の初期貨幣史の再構築を目的とした研究。4カ年計画の初年度は、和同開珎研究の文献目録を作成し、学史の整理に着手した。富本銭の鑄銭技術を復原し、研究会を開催して、中・近世の鑄銭技術との比較研究をおこなった。あわせて「古代鑄銭関係史料集稿」を作成した。

#### ◆東アジア古代都城の苑地に関する基礎的研究

代表者・金子裕之 基盤研究(B)(2)新規

古代都城の苑地(庭園施設)は広い面積と、池、宮殿楼閣、農園など諸施設を備えており、貴族や諸国国衛の苑(嶋)の源である。その成立には中国朝鮮半島の影響がある。本研究はこの観点から、古代苑地を再構成し、都城制のなかに位置づけることを目的とする。平城宮史料には南苑、西池宮など2苑1池宮、1池亭がある。「苑池」の語は朝鮮史料にはなく、旧唐書など中国史料と関連する。平城宮の苑地が唐の影響下にある証であろう。

#### ◆古代東アジアにおけるガラス生産の基礎研究

代表者・川越俊一 基盤研究(C)(2)継続

最終年度は、これまでに収集した東アジアにおける古代のガラス関連資料の分析を行った。その結果古代東アジア、特に日本と韓国においては、ガラス生産用の坩堝の形態、使用されるガラスの種類の変化過程、製品の種類等の点において、極めて共通性の高いことが確認でき、我国へのガラス生産技術が朝鮮半島から直接もたらされたものと推定されるようになった。

#### ◆弥生時代タタキ技法の波及経路

代表者・深澤芳樹 基盤研究(C)(2)継続

本年は、最終年度に当たる。そこで、海外調査として大韓民国漢陽大学校博物館において、忠清南道安眠島古南里貝塚出土の松菊里式土器を観察し、土器外面の凹凸が、貝殻条痕やハケメなどの工具をひきずってできた痕跡ではなく、確実にタタキメと判定できることを確かめた。また国内外で、研究者との意見交換や資料の観察をおこなった。

#### ◆超臨界点乾燥法を用いた有機質遺物の新規保存処理法の開発

代表者・高妻洋成 基盤研究(C)(2)継続

本年度は、超臨界二酸化炭素を用いた出土木製品の保存科学的基礎的研究として、超臨界流体クロマトグラフィをもちいて乾燥機構を解明する一方、強化含浸～乾燥処理を連続しておこなう処理方法の確立を目的に研究を進めてきた。その結果、処理時間あるいは処理温度などの操作条件の最適化により、処理後の製品の保存状況を大きく改善する可能性が示された。

#### ◆古代金属系の材質と製作技術の歴史の変遷に関する材料科学研究

代表者：村上 隆 基盤研究(C)(2)継続

金属系の歴史の変遷を探るために、現代の金糸の製作技術を調査した。また、わが国で出土した古代金糸の製作技術の背景には、厚さ10～30 $\mu\text{m}$ の金製薄板製作の重要性があることを確認することができた。さらに、細型の金製耳環が金薄板を応用した製作技術によって作られていることをはじめて解明し、これを「金薄板積層成形技法」と名づけた。

#### ◆日本古代宮都の官衛配置の研究

代表者：渡邊晃宏 基盤研究(C)(2)継続

前年度に引き続き、平城宮の官衛配置を考える基礎資料として、平城宮出土の木簡・墨書土器など出土文字資料の収集、続日本紀を初めとする文献史料の調査などをおこない、平城宮の構造についての見通しを得、平城宮内の施設・官衛名推定について再検討した。また、裏松固禪『大内裏図考証』についての検討もおこなった。

#### ◆古代の非鉄金属生産の考古学的研究

代表者・小池伸彦 基盤研究(C)(2)継続

昨年度に引き続き、長登銅山跡、平原第II遺跡から出土した9世紀代の鉛製錬関連遺構・遺物の検討および銅の製錬・精製・熔解炉型式の再検討を進めた。その結果、鉛の製錬工程の一部について「乾式製錬法」との類似を明らかにし、銅生産では熔解炉に新たな分類型式を加えた。また、『続日本紀』駿河国産金記事をめぐり、富士川上流の産金地との関連を視野に入れて踏査を実施した。

#### ◆古代の穎穀収取に関する考古学的研究

代表者・山中敏史 基盤研究(C)(2)継続

郡衛正倉および豪族居宅関係遺跡について、各地の発掘調査報告書に掲載されている総柱高床倉庫遺構のデータ収集を継続するとともに、倉庫に関わる文献資料の収集作業を進めた。また、天平期の諸国正税帳や「越中国官倉納穀交替記」にみえる正倉の記載と、これまでに収集してきた正倉遺構データとを比較分析し、穀倉・穎倉・穎屋の規模や収納量の特徴について検討を加えた。

#### ◆遺構計測法の効率化ならびに体系化に関する研究

代表者・小澤 毅 基盤研究(C)(2)新規

本研究は、近年の測量機器の発達と普及に対応して、遺構計測法の効率化と体系化を図ろうとするものである。本年度は、まず現在までの計測法の変遷について整理したほか、実際に大峰山系の宿坊跡で測量調査を実施し、有用性のテストをおこなった。あわせて、各地の実態を把握するための資料調査に着手した。

#### ◆東アジアにおける武器・武具の比較研究—騎兵装備を中心に—

代表者・小林謙一 基盤研究(C)(2)新規

騎兵装備のなかで、人のみならず、馬も甲冑を着用する重装騎兵について検討した結果、中国東北地方の重装騎兵が、高句麗を經由して、5世紀になると韓半島南端に、5世紀末には日本列島に、時期差を持って出現することが確認されるとともに、日韓においては、いずれも、騎馬文化より遅れて伝来していることが明らかになった。

#### ◆墳墓副葬品から見た古代日韓の地域間交流と社会変化についての研究

代表者・高橋克壽 基盤研究(C)(2)新規

前期古墳は弥生時代の墓と比べ、鉄製の武器、農具の多種多量副葬傾向が著しく、3世紀における弥生墳丘墓から古墳への飛躍がそこに読み取れる。一方、朝鮮半島においては、同様な変化は日本より早く2世紀代に達成されていた。楽浪郡衰退後、丹後の勢力などとともに外交の主導権を握った大和政権が、遅れてそれを学びとった。

#### ◆中世室生寺の復興

代表者・箱崎和久 奨励研究(A)継続

室生寺灌頂堂(現本堂)にみえる意匠・構造は、天皇家の帰依を受けて北京律僧が造営したと考えれば、理解しやすい部分が多い。現存遺構がない天皇家および北京律僧による中世の寺院建築を考えるうえでも室生寺灌頂堂は重要な遺構である。北京律僧は東寺・東大寺のほか鎌倉などでも活躍しており、これらの寺院や地域における建築の様相を、北京律僧の活動からとらえ直してみる必要がある。

#### ◆出土文字史料における書風の研究

代表者・山下信一郎 奨励研究(A)新規

この研究は、近年、出土例が増加している7世紀代後半の木簡を総合的に研究しようという意図(書風・記載・形状)のもと、2カ年を費やして7世紀末8世紀初頭の木簡の書風を分析しようとしたものである。本年度は藤原宮跡出土木簡、藤原京跡出土木簡から特定の資料を選び、一文字ごとの集成と分析をおこなった。

#### ◆銅鐸からみた地域間関係の研究

代表者・石橋茂登 奨励研究(A)新規

東海地方を中心として、銅鐸と各種遺物、遺構の様相の比較検討を中心に研究を進めている。本年度は、関係する諸文献の収集と、各種データのデータベース化を中心におこなった。また、銅鐸出土地の実地踏査、銅鐸の観察もおこない、有益な情報を得ることができた。

#### ◆文様・技法からみた国分寺創建期瓦の基礎的研究

代表者・清野孝之 奨励研究(A)新規

本研究は国分寺創建期の軒瓦について、瓦当文様の同范、類似関係と製作手法の分析を目的とする。今年度は、総国分寺である東大寺の瓦の分析を中心に、東大寺創建期の瓦と深い関係を持つ、東寺、西寺、西大寺、西隆寺の瓦調査もおこなった。また、これと並行して大和周辺の国分寺の瓦調査をおこない、検討を進めている。

#### ◆歴史的建造物保存・修復論についての日中比較史研究

代表者・清水重敦 奨励研究(A)新規

木造建造物の保存・修復論を国際的観点から位置づけることを目的とする研究の1年目として、日本と中国の木造建造物保存・修復の比較において差異が際だつ、日本近代の解体修理の手法の成立過程を考察した。近代システムとしての解体修理が、19世紀までに培われてきた伝統的方法と西洋的な修復論との融合として成立していくさまを論文にまとめ、国際比較をおこなうための足がかりとした。

#### ◆中国長江流域における古代のイネの系統特性に関する研究

代表者・松井 章(特別研究員・鄭 雲飛)

特別研究員奨励費 継続

長江下流域で最古の新石器時代遺跡と言われている跨湖橋遺跡でプラント・オパール分析をおこなった結果、河姆渡遺跡より古い稲作遺跡であり、イネがジャポニカに近いことが分った。一方、機動細胞珪酸体の量的遺伝子解析の結果、形状と亜種との関係について、分子遺伝学的構造が明らかとなった。

#### ◆DNAによる出土木材の樹種同定

代表者・大山幹成 特別研究員奨励費 転入

本研究の目的は、日本産ブナ科樹木の出土木材をDNAで同定する方法を確立することである。一部の種ははまだ種特異的DNAマーカーが見つかっていないため、引き続きDNA塩基配列情報の収集に努めた。DNA抽出については、木材に残存しているDNAの状態について基礎的な情報を得ることを目指し、年輪年代学的手法を用いて材の置かれてきた環境の一端を明らかにする手がかりを得た。

#### ◆日本における第四紀以降のイノシシの形態に基づく形態変化と系統分類

代表者・藤田正勝 特別研究員奨励費 新規

イノシシとシカを含む哺乳類遺存体が出土する約1800件の日本の縄紋遺跡をデータベース化した。さらにその中の約1割の遺跡で出土状況を明らかにし、種類別、年代別に分布の変遷を明らかにする目的で文献調査した。

#### ◆東アジア古代彩色に関する考古科学的研究

代表者・沢田正昭(特別研究員・杜 曉帆)

特別研究員奨励費 継続

東アジア古代彩色に用いられている材料および壁体・塑像などの彩色支持体の構造を自然科学的な手法を用いた分析・調査をおこない、中国、日本および朝鮮半島における古代彩色に関する考察と、それらのデータ・文献を収集し、彩色材料に関するデータベースを作成した。

## 学会・研究会等の活動

### ◆日韓苑池遺跡比較研究会

「古代都市遺跡の京城研究」ならびに「東アジアにおける生産遺跡の調査研究協力(韓国)」の一環で、日韓苑池遺跡の比較を目的に2002年2月1日に飛鳥藤原宮跡発掘調査部で研究会を開催した。基調報告者は、奈文研が国際学術交流をおこなっている韓国国立文化財研究所の兪洗植氏と、奈良県立橿原考古学研究所のト部行弘氏であった。兪氏は2001年秋に韓国国立文化財研究所が調査した『慶州九黄洞苑池遺跡』について、ト部氏は調査進行中の『飛鳥京苑池遺跡』についてそれぞれ報告した。質疑応答を経て、双方の庭園の特徴などを確認し比較検討をおこなった。なお、前者の報告は、情報の得にくい国外の庭園遺跡に関する発掘調査速報とも言えるものであり、日本の古代庭園の研究とも関わるため、日本造園学会誌『ランドスケープ研究』で概要を報告した。(内田和伸)

### ◆木簡学会研究集会

2001年12月1・2両日、第23回木簡学会研究集会が奈良文化財研究所平城宮跡資料館講堂においておこなわれた。1日は、高島英之「墨書土器と木簡—資料的性格をめぐって」、古尾谷知浩「都城出土漆紙文書の来歴」の2本の研究報告と、中島皆夫「長岡京右京六条二坊六町の調査と出土木簡」の事例報告、2日は、渡辺晃宏「2001年全国出土の木簡」、山下信一郎「藤原京左京七条一坊西南坪出土の木簡」、吉留秀敏・坂上康俊「元岡・桑原遺跡の調査と出土木簡」の3本の事例報告があり、木簡の実物の観察に基づいた活発な討議がおこなわれた。また、『木簡研究』第23号を刊行した(編集担当 馬場 基)。(渡辺晃宏)

### ◆条里制・古代都市研究会

2002年3月2～3日の両日、第18回条里制・古代都市研究会大会が奈良文化財研究所平城宮跡資料館講堂にておこなわれた。2日は、「荘園と条里」を大会テーマとして、高橋学「環境変動と土地開発—一条里型地割の施工前と施工後—」、北野博司「初期荘園と土地開発—加賀地域の事例から—」、鷺森浩幸「荘園関係文書における四至記載と町段歩記載」の3本の研究報告とコメント、討議がおこなわれた。3日には、平城京、難波京、松山市久米宮衛遺跡群、出雲国府跡の発掘調査や、鎌倉期院伊国南部荘における条里と検注の研究結果が報告された。(山中敏史)

### ◆埋蔵文化財写真技術研究会

2001年7月6～7日に第13回総会および研究会をおこなった。

7月6日：総会 参加者115名(含む委任状)・講演 参加者75名「全国埋文写真事情」(牛嶋茂氏：奈良文化財研究所)

7月7日：講演 参加者118名「博物館における写真の整理・保存」(三原昇氏：フォトファクトリーミハラ)「キトラ古墳のデジタル撮影」(井上直夫氏：奈良文化財研究所)

「伝えたいことはなんですか～写真に出会って見えた物」(玉内公一氏：ティーコア)「文化財写真がカラーになった日」(坪井清足氏：(財)元興寺文化財研究所)

本年は、講演に元奈文研所長の坪井氏をお迎えして、日本で最初の文化財カラー写真の紹介を交えながら文化財写真資料の保存に関して発表をおこなった。また、話題になったキトラ古墳の写真を展示して撮影者である井上技官が、報告をおこなった。(中村一郎)

## 調査研究彙集

### ◆鳥取県気高町上原遺跡群出土瓦の調査

鳥取県気高町教育委員会からの依頼にともなう調査で、上原遺跡群(因幡国気高郡衛・寺院・居宅)から出土した丸瓦・平瓦の数点に、凸面の端部近くに紐を押しつけて付けた細溝があることを発見した。分割指標とみられる。凸面にヘラで分割界線を引いた例はあるが、本例のような技法はこれまでに報告例がない。(山中敏史)



紐を押しつけて分割指標としたとみられる溝

### ◆第67回 SAA 学会に参加

2002年3月17日～25日、アメリカ、デンバーで開催された「全米考古学学会」にて研究発表をおこなった。演題“Applications of Dendrochronology to Japanese Archaeology”によって、わが国の年輪年代学を考古学(弥生、古墳)に応用した事例を広く紹介した。(光谷拓実)

## 文化庁が実施する宮跡復原整備事業等への指導・助言・協力等

### ●平城宮跡の整備

#### 第一次大極殿復原事業

第一次大極殿復原事業について、文部科学省文教施設部大阪工事事務所に対して、「大極殿復原工事」の施工・監理業務の発注に関する助言・指導をおこなった。また工事着工後は、工事立会等を通して、特に遺構保護の観点から指導・助言をおこなった。

#### 第一次大極殿院復原基本設計準備事業

第一次大極殿院地区については、「基本設計準備」の発注に関する指導・助言をおこない、大極殿院地区の地形復原等に関する基礎データ（後述）を提供した。また基本設計準備事業の進行に伴い、遺構解釈、データの持つ意味、事業の方向性、成果物の作成方針について請負者である(財)文化財建造物保存技術協会に対して、指導・助言をおこなった。

第一次大極殿院地区では、基本設計準備に関連して、大極殿院地区全体の地形復原および築地回廊・磚積擁壁・斜路の復原考察をおこなった（詳細については「奈良文化財研究所紀要 2002」参照）。特に築地回廊については、奈良時代中葉の掘立柱塀遺構の柱掘形断面の詳細な検討をおこない、築地回廊桁行方向の断面形状の復原案を作成した。また磚積擁壁斜路については、回廊の断面形状とのすりあわせ手法について復原検討をおこなった。さらに回廊雨落溝遺構および大極殿広場の礫敷きの標高値から大極殿院地区全体の地形について大略を把握した。大極殿院回廊については特に北面回廊の基壇高解釈に課題が残され、さらに詳細な検討を要する。



第一次大極殿復原基礎工事

### 平城宮跡地一般整備

平城宮跡地内における整備候補地とその整備手法などを提示し、文化庁および大阪工事事務所に対し、工事発注に関する助言・指導をおこなった。

### ●藤原宮跡の整備

藤原宮跡西辺南部にある縄手池では、護岸工事にともなう発掘調査を1999年に実施し、池の南東部で藤原宮西面大垣にあたる掘立柱の南北塀を確認し、西面南門についてもその規模等を推定していた。その後、土地の公有化及び池（西面南門跡及び大垣跡に当たる）の一部の埋め立て造成を済ませていた。そこで、この地区についての整備案をまとめ、文化庁および文教施設部に提示し、具体的内容について指導助言をおこなった。

門跡は敷地の制約から本体の北西部1/4のみの表現に留まるが、盛土で表現し、推定される柱位置や扉位置には、礎石や唐居敷を復原し配置する案とした。これらは西面中門での出土例を参考にした。大垣跡では、180cmの朱塗りの柱を立て、藤原宮の西限がイメージしやすくすることにした。また外濠推定地は平面表示に留め、イラスト入りの陶板の説明板も併せて設置する提案をおこなった。



藤原宮西面南門の整備工事状況

### ●キトラ古墳の予備調査

2001年12月6日に文化庁が実施したキトラ古墳の予備調査につき、当研究所は正式依頼を受けて協力した。南壁全体と盗掘坑の正確な形状を知ることを主たる目的として、ガイドパイプからデジタルカメラ（400万画集）を挿入し撮影。新たに十二支像と思われる像も見つかった。

## 2 研修・指導と教育

### 埋蔵文化財センターの研修と指導

文化財の保存・活用を推進し、国民に対するサービスの向上を図るため、地方公共団体等の埋蔵文化財担当専門職員の資質向上を目的とする研修を実施している。今年度の開催した課程数は、12 課程であり、一般研修を2 課程、専門研修として8 課程、そして特別研修2 課程を開催した。(研修一覧参照)

また、遺跡学をめざした遺跡の保存と活用に関する特別講座を開講した。

文化財の保存と活用を推進し、国民に対するサービス向上を図るため、関係機関等に対する指導・助言等の協力をおこなった。今年度は、藤枝市史編纂、島根県立歴史民俗博物館・古代文化研究センターの整備（展示等）、兵庫県梅田東古墳出土赤色顔料の調査、鹿児島県市来町安茶ヶ原遺跡等の発掘調査指導、兵庫県・辰馬考古資料館所蔵青銅鏡・銅鐸の保存処理指導等を実施した。



埋文研修写実実習風景等

### ■ 2001年度 埋蔵文化財発掘技術者等研修課程一覧

区分	課程	実施期日	定員
一般研修	埋蔵文化財基礎課程	5月8日～5月16日	30名
	一般課程	6月12日～7月17日	24名
専門研修	保存科学課程	5月22日～6月6日	16名
	文化財写真課程	8月21日～9月21日	16名
	測量外注管理課程	10月3日～10月16日	16名
	官衙遺跡調査課程	10月23日～11月2日	24名
	遺跡保存整備課程	11月13日～12月12日	16名
	報告書作成課程	1月16日～1月25日	24名
	遺跡環境調査課程	1月31日～2月14日	16名
	陶磁器調査課程	2月19日～2月26日	24名
特別研修	遺跡地図情報課程	12月18日～12月21日	30名
	歴史遺産活用課程	3月5日～3月7日	40名

対 象	内 容	担 当 室	研修日数	申込者数	受講者数
地方公共団体の埋蔵文化財担当の事務系職員若しくはこれに準ずる者	埋蔵文化財行政を担当するうえで必要な遺跡・遺物に関する基礎的知識の研修	古環境研究室	9日	21名	21名
地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者で、発掘調査の経験が十分でない者	遺跡の発掘調査を進めるために必要な基礎的知識と技術の研修	国際遺跡研究室	36日	22名	20名
地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者で、一般研修終了者又はそれと同程度の経験を有する者	遺物の保存に関する保存科学的な専門的知識と技術の研修	保存修復科学研究室	16日	13名	13名
〃	埋蔵文化財の写真撮影等に関して必要な専門的知識と技術の研修	写真資料調査室	32日	10名	10名
〃	外注管理に必要な測量基礎の実習と仕様書の作成などに必要な専門的知識の研修	遺跡調査技術研究室	14日	17名	15名
〃	官衙遺跡の調査研究に関して必要な専門的知識と技術の研修	遺物調査技術研究室	11日	18名	18名
〃	遺跡の保存整備に関して必要な専門的知識と技術の研修	保存修復工学研究室	30日	12名	12名
〃	見やすく読みやすい報告書の作り方と、図録・学術誌編集の基礎に関する研修	文化財情報研究室	10日	45名	30名
〃	遺跡の発掘において、第四紀学の成果を用いて過去の自然環境を推定復原する方法を学ぶ研修	古環境研究室	15日	17名	16名
〃	古代・中近世遺跡出土中国・日本陶磁器の調査研究に関して必要な専門的知識と技術の研修	国際遺跡研究室	8日	53名	36名
地方公共団体の埋蔵文化財担当の職員若しくはこれに準ずる者で、一般研修終了者又はそれと同程度の経験を有する者	埋蔵文化財の調査研究へのGISの応用に関する基礎的知識の研修	文化財情報研究室	4日	38名	30名
〃	保存整備した歴史遺産を地域社会に活かす理念、方法、実践例を学ぶ研修	遺物調査研究	3日	57名	43名

## 2001年度 日本各地の遺跡・建造物等に関する指導・協力一覧

(委員として指導・協力しているものに限る)

- (北海道) フゴッペ洞窟 カリンバ3遺跡 最寄貝塚  
(網走市)
- (青森) 須恵器窯跡群 三内丸山遺跡 青森県史編さん
- (岩手) 柳之御所遺跡 志波城跡
- (宮城) 多賀城跡
- (秋田) 払田柵跡
- (福島) 流廃寺跡出土鉄剣
- (栃木) 下野国分寺跡 近代遺産(建造物)
- (富山) 布尾山古墳
- (石川) 加茂遺跡出土加賀郡勝示札 七尾城跡
- (福井) 国吉城趾 王山古墳群・兜山古墳
- (岐阜) 長塚古墳 高山市伝統的建造物群
- (静岡) 新居関跡 登呂遺跡 県内寺院官衙遺跡  
藤枝市史編さん
- (三重) 宝塚古墳
- (滋賀) 近江国庁跡 安土城跡 紫香楽宮跡
- (京都) 恭仁宮跡 椿井大塚山古墳 仁和寺 鹿苑寺修羅
- (大阪) 堺市土塔 今城塚古墳 新堂廃寺 泉布観
- (兵庫) 赤穂城(仮称)三輪明神窯跡  
八鹿町史跡保存管理
- (奈良) 酒船石遺跡 春日大社 大乘院庭園  
キトラ古墳周辺地区
- (鳥取) 上原遺跡 青谷上寺地遺跡 妻木晩田遺跡
- (島根) 石見銀山遺跡 出雲国府跡 古代文化センター
- (広島) 安芸国分寺跡 府中市埋蔵文化財 原爆ドーム
- (岡山) 鬼城山 万富東大寺瓦窯跡 津山市景観整備
- (山口) 大内氏館跡 山口県史編さん
- (徳島) 阿波国分尼寺跡 脇町景観整備
- (香川) 有岡古墳群 宗吉瓦窯跡 丸亀城跡 快天山古墳
- (愛媛) 来住廃寺跡 宇和島城跡 葉佐池古墳
- (福岡) 大宰府跡 三雲遺跡 下高橋官衙遺跡
- (佐賀) 肥前国府跡 名護屋城跡並びに陣屋
- (長崎) 原の辻遺跡 原城跡 肥前波佐見陶磁器窯跡

## 京都大学大学院の教育

京都大学大学院の人間・環境学研究科、文化地域・地域環境学専攻、環境発展論講座において、住環境保全論(山中敏史)、考古環境学論(田辺征夫)、文化財保存科学論(沢田正昭)、文化財保存調査法論(光谷拓実、松井 章)に関する講義、およびそれらに関する演習および実習をおこなった。なお、講義は京都大学と奈良文化財研究所において実施、演習および実習は主として奈良文化財研究所の各担当教官の研究室において開催した。



京都大学大学院生がトイレ土壌水洗実習をおこなう

## 奈良女子大学大学院の教育

奈良文化財研究所が奈良女子大学と連携している大学院教育では、3名の併任教官が人間文化研究科(博士後期課程)比較文化学専攻文化史論講座の3科目を受け持っている。

歴史考古学特論(花谷浩)、宗教考古学特論(金子裕之)、歴史資料論(渡邊晃宏)であり、歴史考古学は6・7世紀の寺院や瓦磚の諸問題、宗教考古学では律令的祭祀の諸問題、歴史資料論は木簡の諸問題を扱う予定である。

これらはいずれも飛鳥藤原京、平城京における貴重な発掘品を前に行う授業であり、他に例をみない。奈文研ならではの“贅沢”な教育、といえよう。

## 3 展示・公開

### 飛鳥資料館の展示

#### ◆春期特別展示「遺跡を探る」

2001年5月15日～7月1日

地中に埋もれた遺跡の有無や性格を、発掘以前に推定することは、遺跡の保護、調査に携わる者にとって、基本的な作業といえる。学術調査をおこなうにしても、土地開発に対応する事前調査を計画するにしても、まず地下の遺跡を知る必要があるからである。このために研究者が対象地の上を歩き回って、特徴的な地形や、地表に散った遺物片の分布を調べるとか、崖面や掘削工事であられた土層を観察するといったやり方がおこなわれてきた。物理機器を用いた地中探査は、こうした遺跡確認の手法を補い、さらに確実にする手段として研究され、実際に応用されるようになったものである。探査の結果は発掘調査地区を設定したり、発掘の期間や費用の目安をたてたりするのに役立つ。資料館の特展では、大地比抵抗測定装置、磁気探査機、地中レーダーなどの遺跡探査機器の実物を展示、その作動原理を解説するとともに、写真パネルやグラフを用いて様々な遺跡への実際の応用例を展示した。各種の探査装置がどのような遺跡の調査にむいているのか、探査結果がどのように遺跡調査に利用されるのかなどの情報を含めて、地中探査技術と考古学のかかわりを捉えた試みである。

#### ◆秋期特別展示「飛鳥のイメージ」

2001年10月16日～12月2日

遺跡の発掘調査結果や古代の資料の研究から、歴史上の出来事や昔の人々の生活について、さまざまな事実が明らかになり、多くの研究書が書かれている。しかし、こうした文章から古代の社会の具体的な姿を思い浮かべるのは、易しいことではない。これまで資料館は折りにふれ、飛鳥時代の都のありさま、人々のいでたち、戦争の様子などを、目に見える形に復原して紹介する努力をしてきた。こうした復原は決して絶対的なものではなく、資料の増加を待つて、改めなければならない部分があることは言うまでもない。それでもなおこうした復原の作業は、一方では古代史研究の成果を再確認し、もう一方では多くの人々にそれを伝える、重要な手段といえる。この特別展示では、当館のこれまでの仕事を中心としながら、他館の協力も得て、飛鳥時代にかかわる復原イメージの集成をおこなったものである。展示内容は、川原寺、四天王寺といった古寺院、飛鳥京、遣唐使船などの建造物から、飛鳥時代の衣装や食事と

いった風俗習慣、あるいは壬申の乱戦闘の模型などまで、古代のさまざまな場面におよんでいる。

### 平城宮跡資料館の展示

「発掘速報展平城 2001 一奈良の都を掘る一」を2001年11月13日～11月25日に開催した。この展示は、2000年度を主体とし、一部2001年度もふくめた、平城宮および平城京内の発掘調査成果を速報展示したものである。

展示は遺跡展示と遺物展示に分かれる。遺跡展示は、平城宮第一次大極殿地域(平城第315・316次)、平城京内では、左京三条一坊(第314・7次) 興福寺金堂(第325次)、興福寺大乘院(第318次)、興福寺一乗院(第317・321次)、西隆寺西面回廊(第320・324次)などの調査成果を写真パネルにより展示した。展示した遺物の主なものは、平城宮第一次大極殿地区の木簡、一乗院の瓦、土器、金属鑄造関係品などである。現地説明会の行われた現場はもとより、記者発表だけの現場、また、全く報道されなかった現場の調査成果をも展示し、調査成果を広く紹介することをめざした。木簡の現物の展示は好評で、とくに「難波津の歌」の一節の記された木簡は人気を集め、くいいるようにながめる観覧者の姿がめだつた。

### 飛鳥藤原宮跡発掘調査部の速報展示 「キトラ古墳壁画」

キトラ古墳は、高松塚古墳の約1km南にあたる、明日香村阿部山にある小さな円墳である。高松塚古墳の発掘以来周辺の遺跡への関心が高まる中、その存在が知られるようになった。1983年になって、石室にファイバースコープを入れて調べたところ、内側の壁面に漆喰を塗っていること、北壁には「玄武」が描かれており、ほぼ完全なかたちで残っていることが確かめられた。その後2001年3月までの、明日香村教育委員会の学術探査によって、南壁の「朱雀」を含む四神のセット、天井の天文図などが見つかった。2001年12月には、内部の漆喰の損傷状態、中世にかけられた盗掘孔の位置などを観察し、中に人がはいつて発掘や保存の仕事をすすめるための、データ採集をおこなった。この展示は最終の予備調査で得られた画像を、広く一般に公開するため2002年2月26日～2002年3月24日に実施したものである。

## 解説ボランティア事業

平城宮跡を訪れた観光客らに平城宮跡資料館、遺構展示館、復原建物等の案内・解説をおこなう「平城宮跡解説ボランティア」事業を、1999年10月から開始した。

2001年10月1月現在98名(1期生67名、2期生31名)の解説ボランティアが登録されており、1日当たり7～10名が休館日の月曜日を除く毎日、平城宮跡資料館、遺構展示館、東院庭園、朱雀門を拠点に活動している。

2001年度の活動実績は、延べ約6万人にのぼる多くの来訪者を解説案内し、各ボランティアは、月2日～3日活動している。説明を受けた来訪者からお礼の手紙が寄せられたり、マスコミや文化ボランティア通信(文化庁)に取り上げられるなど、ボランティアの熱心な学習意欲と熱意により、好評を得ている。

研究所としてもボランティア活動を積極的に支援するため、研修、学習会及び遺跡見学会の実施、資料・刊行物の配布、更に、2001年6月から「続日本紀」の読書会を長期計画で始めたところである。また、案内板の設置や活動着の配布、研究所の職員を交えた交流会を実施している。

## 図書資料・データベースの公開

本研究所図書資料室では、遺跡の発掘調査報告書、歴史的建造物の修理報告書等歴史・考古学分野を中心に図書約20万冊、逐次刊行物約7000タイトル、発掘調査関係の遺跡、建造物、庭園等の写真約70万点を所蔵している。2001年度は、新たに図書約1万冊、写真約4万点の受入をおこなった。所外の研究者および一般の利用者へは、書庫への入庫等一部利用制限付きではあるが資料を公開している。2001年度には、所外から来室した一般利用者に対し図書データベース検索の便宜を図るため検索用パソコン4台およびプリンタを設置した閲覧室を整備した。

本研究所では、文化財情報の電子化をおこなうとともに公開用の文化財関係データベースの継続的な内容の充実を図っている。2001年度には、インターネット経由で公開している木簡データベース、全国遺跡データベース、古代・地方官衙・居宅・寺院関係遺跡文献データベースについて、内容の充実をおこなった。

### ■ 2001年度 平城宮跡解説ボランティア活動状況

年 月	ボランティア 活動者数	解 説 の べ 人 数			計
		団 体		個 人	
		学 生	一 般		
2001年 4月	193	2,694	1,651	2,311	6,656
2001年 5月	189	6,023	2,250	2,357	10,630
2001年 6月	190	3,592	1,752	1,456	6,800
2001年 7月	185	180	1,250	1,318	2,748
2001年 8月	178	74	179	2,691	2,944
2001年 9月	179	536	1,562	2,050	4,148
2001年10月	188	3,364	4,060	1,854	9,278
2001年11月	168	1,849	2,422	1,986	6,257
2001年12月	140	395	1,782	1,202	3,379
2002年 1月	161	189	418	1,456	2,063
2002年 2月	170	658	564	1,535	2,757
2002年 3月	187	1,058	1,418	2,182	4,658
計	2,128	20,612	19,308	22,398	62,318

## 4 その他

## 刊行物・データベース等

## 奈良文化財研究所学報

- 第 1 冊 仏師運慶の研究 (1954)  
 第 2 冊 修学院離宮の復原的研究 (1954)  
 第 3 冊 文化史論叢 (1955)  
 第 4 冊 奈良時代僧房の研究 (1956)  
 第 5 冊 飛鳥寺発掘調査報告 (1957)  
 第 6 冊 中世庭園文化史 (1958)  
 第 7 冊 興福寺食堂発掘調査報告 (1958)  
 第 8 冊 文化史論叢 (1959)  
 第 9 冊 川原寺発掘調査報告 (1959)  
 第 10 冊 平城宮跡第一次・伝飛鳥板蓋宮跡発掘調査報告 (1960)  
 第 11 冊 院の御所と御堂―院家建築の研究― (1961)  
 第 12 冊 巧匠阿弥陀仏快慶 (1962)  
 第 13 冊 寝殿造系庭園の立地的考察 (1962)  
 第 14 冊 唐招提寺蔵「レース」と「金亀舎利塔」に関する研究 (1962)  
 第 15 冊 平城宮発掘調査報告 II 官衙地域の調査 (1962)  
 第 16 冊 平城宮発掘調査報告 III 内裏地域の調査 (1963)  
 第 17 冊 平城宮発掘調査報告 IV 官衙地域の調査 (1965)  
 第 18 冊 小堀遠州の作事 (1965)  
 第 19 冊 藤原氏の氏寺とその院家 (1967)  
 第 20 冊 名物裂の成立 (1969)  
 第 21 冊 研究論集 I (1971)  
 第 22 冊 研究論集 II (1973)  
 第 23 冊 平城宮発掘調査報告 VI 平城京左京一条三坊の調査 (1974)  
 第 24 冊 高山一町並調査報告― (1974)  
 第 25 冊 平城京左京三条二坊 (1975)  
 第 26 冊 平城宮発掘調査報告 VII (1975)  
 第 27 冊 飛鳥・藤原宮発掘調査報告 I (1975)  
 第 28 冊 研究論集 III (1975)  
 第 29 冊 木曾奈良井一町並調査報告― (1975)  
 第 30 冊 五條一町並調査の記録― (1976)  
 第 31 冊 飛鳥・藤原宮発掘調査報告 II (1977)  
 第 32 冊 研究論集 IV (1977)  
 第 33 冊 イタリア中部の一山岳集落における民家調査報告 (1977)  
 第 34 冊 平城宮発掘調査報告 IX (1977)  
 第 35 冊 研究論集 V (1978)  
 第 36 冊 平城宮整備調査報告 I (1978)  
 第 37 冊 飛鳥・藤原宮発掘調査報告 III (1979)  
 第 38 冊 研究論集 VI (1979)  
 第 39 冊 平城宮発掘調査報告 X (1980)  
 第 40 冊 平城宮発掘調査報告 XI (1981)  
 第 41 冊 研究論集 VII (1984)  
 第 42 冊 平城宮発掘調査報告 XII (1984)  
 第 43 冊 日本における近世民家（農家）の系統的発展 (1984)  
 第 44 冊 平城京左京三条二坊六坪発掘調査報告 (1985)  
 第 45 冊 薬師寺発掘調査報告 (1986)  
 第 46 冊 平城京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告書 (1988)  
 第 47 冊 研究論集 VIII (1988)  
 第 48 冊 年輪に歴史を読む―日本における古年輪学の成立― (1990)  
 第 49 冊 研究論集 IX (1991)  
 第 50 冊 平城宮跡発掘調査報告書 XIII (1991)  
 第 51 冊 平城宮跡発掘調査報告書 XIV (1992)  
 第 52 冊 西隆寺発掘調査報告書 (1992)  
 第 53 冊 平城宮朱雀門の復原的研究 (1993)  
 第 54 冊 平城京左京二条二坊・三条二坊一長屋王邸・藤原麻呂邸―発掘調査報告 (1994)  
 第 55 冊 飛鳥・藤原宮発掘調査報告 IV  
 ―飛鳥水落遺跡の調査― (1994)  
 第 56 冊 平城京左京七条一坊十五・十六坪発掘調査報告 (1996)  
 第 57 冊 日本の信仰遺跡 (1998)  
 第 58 冊 研究論集 X (1999)  
 第 59 冊 中世瓦の研究 (1999)  
 第 60 冊 研究論集 XI (1999)  
 第 61 冊 研究論集 XII (2000)  
 第 62 冊 史跡頭塔発掘調査報告 (2000)  
 第 63 冊 山田寺発掘調査報告 (2001)  
 第 64 冊 研究論集 XIII (2001)

## 奈良文化財研究所史料

- 第 1 冊 南無阿弥陀仏作善集（複製） (1954)  
 第 2 冊 西大寺叡尊伝記集成 (1955)  
 第 3 冊 仁和寺史料 寺誌編 1 (1963)  
 第 4 冊 俊乗坊重源史料集成 (1964)  
 第 5 冊 平城宮木簡 1 函版 (1966)  
 第 6 冊 仁和寺史料 寺誌編 2 (1967)  
 第 5 冊 平城宮木簡 1 解説（別冊） (1969)  
 第 7 冊 唐招提寺史料 I (1970)  
 第 8 冊 平城宮木簡 2 函版・解説 (1974)  
 第 9 冊 日本美術院彫刻等修理記録 I (1974)  
 第 10 冊 日本美術院彫刻等修理記録 II (1975)  
 第 11 冊 日本美術院彫刻等修理記録 III (1976)

- 第12冊 藤原宮木簡1 図版・解説(1977)  
 第13冊 日本美術院彫刻等修理記録IV(1977)  
 第14冊 日本美術院彫刻等修理記録V(1978)  
 第15冊 東大寺文書目録第1巻(1978)  
 第16冊 日本美術院彫刻等修理記録VI(1979)  
 第17冊 平城宮木簡3 図版・解説(1979)  
 第18冊 藤原宮木簡2 図版・解説(1979)  
 第19冊 東大寺文書目録第2巻(1979)  
 第20冊 日本美術院彫刻等修理記録VII(1980)  
 第21冊 東大寺文書目録第3巻(1980)  
 第22冊 七大寺巡礼私記(1981)  
 第23冊 東大寺文書目録第4巻(1981)  
 第24冊 東大寺文書目録第5巻(1982)  
 第25冊 平城宮出土墨書土器集成I(1982)  
 第26冊 東大寺文書目録第6巻(1983)  
 第27冊 木器集成図録—近畿古代編—(1984)  
 第28冊 平城宮木簡4 図版・解説(1985)  
 第29冊 興福寺典籍文書目録第1巻(1985)  
 第30冊 山内清男考古資料I(1988)  
 第31冊 平城宮出土墨書土器集成II(1988)  
 第32冊 山内清男考古資料2(1989)  
 第33冊 山内清男考古資料3(1991)  
 第34冊 山内清男考古資料4(1991)  
 第35冊 山内清男考古資料5(1991)  
 第36冊 木器集成図録—近畿原始編—(1992)  
 第37冊 梵鐘実測図集成(上)(1992)  
 第38冊 梵鐘実測図集成(下)(1993)  
 第39冊 山内清男考古資料6(1993)  
 第40冊 山田寺出土建築部材集成(1994)  
 第41冊 平城京木簡1 長屋王家木簡1(1994)  
 第42冊 平城宮木簡5 図版・解説(1995)  
 第43冊 山内清男考古資料7(1995)  
 第44冊 興福寺典籍文書目録第2巻(1995)  
 第45冊 北浦定政関係資料(1996)  
 第46冊 山内清男考古資料8(1996)  
 第47冊 北魏洛陽永寧寺(1997)  
 第48冊 発掘庭園資料(1997)  
 第49冊 山内清男考古資料9(1997)  
 第50冊 山内清男考古資料10(1998)  
 第51冊 山内清男考古資料11(1999)  
 第52冊 地域文化財の保存修復 考え方と方法(1999)  
 第53冊 平城京木簡2 長屋王家木簡2(2000)

- 第54冊 山内清男考古資料12(2000)  
 第55冊 法隆寺古絵図集(2001)  
 第56冊 法隆寺考古資料(2001)

#### 奈良文化財研究所基準資料

- 第1冊 瓦編1 解説(1973)  
 第2冊 瓦編2 解説(1974)  
 第3冊 瓦編3 解説(1975)  
 第4冊 瓦編4 解説(1976)  
 第5冊 瓦編5 解説(1976)  
 第6冊 瓦編6 解説(1978)  
 第7冊 瓦編7 解説(1979)  
 第8冊 瓦編8 解説(1980)  
 第9冊 瓦編9 解説(1983)

#### 飛鳥資料館図録

- 第1冊 飛鳥白鳳の在銘金銅仏(1976)  
 第2冊 飛鳥白鳳の在銘金銅仏 銘文篇(1976)  
 第3冊 日本古代の墓誌(1977)  
 第4冊 日本古代の墓誌 銘文篇(1978)  
 第5冊 古代の誕生仏(1978)  
 第6冊 飛鳥時代の古墳—高松塚とその周辺—(1979)  
 第7冊 日本古代の鷗尾(1980)  
 第8冊 山田寺展(1981)  
 第9冊 高松塚拾年(1982)  
 第10冊 渡来人の寺—桧隈寺と坂田寺—(1983)  
 第11冊 飛鳥の水時計(1983)  
 第12冊 小建築の世界—埴輪から瓦塔まで—(1983)  
 第13冊 藤原宮—半世紀にわたる調査と研究—(1984)  
 第14冊 日本と韓国の塑像(1985)  
 第15冊 飛鳥寺(1985)  
 第16冊 飛鳥の石造物(1986)  
 第17冊 萬葉乃衣食住(1987)  
 第18冊 壬申の乱(1987)  
 第19冊 古墳を科学する(1988)  
 第20冊 聖徳太子の世界(1988)  
 第21冊 仏舎利埋納(1989)  
 第22冊 法隆寺金堂壁画飛天(1989)  
 第23冊 日本書紀を掘る(1990)  
 第24冊 飛鳥時代の埋蔵文化財に関する一考察(1991)  
 第25冊 飛鳥の源流(1991)  
 第26冊 飛鳥の工房(1992)

- 第 27 冊 古代の形 (1994)
- 第 28 冊 蘇我三代 (1995)
- 第 29 冊 斉明紀 (1996)
- 第 30 冊 遺跡を測る (1997)
- 第 31 冊 それからの飛鳥 (1998)
- 第 32 冊 UTAMAKURA (1998)
- 第 33 冊 幻のおおでら—百濟大寺 (1998)
- 第 34 冊 鏡を作る 海獣葡萄鏡を中心として (1999)
- 第 35 冊 あすかの石造物 (1999)
- 第 36 冊 飛鳥池遺跡 (2000)
- 第 37 冊 遺跡を探る (2001)

#### 飛鳥資料館カタログ

- 第 1 冊 仏教伝来飛鳥への道 (1975)
- 第 2 冊 飛鳥の寺院遺跡 1—最近の出土品 (1975)
- 第 3 冊 飛鳥の仏像 (1978)
- 第 4 冊 桜井の仏像 (1979)
- 第 5 冊 高取の仏像 (1980)
- 第 6 冊 橿原の仏像 (1981)
- 第 7 冊 飛鳥の王陵 (1982)
- 第 8 冊 大宮大寺—飛鳥最大の寺— (1985)
- 第 9 冊 高松塚の新研究 (1992)
- 第 10 冊 飛鳥の一と—最近の調査から— (1994)
- 第 11 冊 山田寺 (1997)
- 第 12 冊 山田寺東回廊再現 (1997)
- 第 13 冊 飛鳥のイメージ (2001)

#### その他の刊行物 (2001 年度)

- 奈良文化財研究所紀要 2001
- 奈文研ニュース No.1
- 奈文研ニュース No.2
- 奈文研ニュース No.3
- 奈文研ニュース No.4
- 埋蔵文化財ニュース No.105 (出土金属製遺物の保存処理—応用処理から保存処理まで—)
- 埋蔵文化財ニュース No.106 (奈良三彩関係文献目録)
- 埋蔵文化財ニュース No.107 (2000 年度 埋蔵文化財関係統計資料)
- 埋蔵文化財ニュース No.108 (環境考古学 2 中・小型哺乳類骨格図譜)
- 興福寺第 1 期境内整備事業に伴う発掘調査概報 III
- 銚帯をめぐる諸問題

- 滋賀県近世民家にみる住まうための工夫
- 東アジア金属工芸史の研究 1 神門神社蔵鏡図録
- 東アジア金属工芸史の研究 2 含水居蔵鏡図録
- 平城宮発掘調査出土木簡概報 36
- 飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報 (15)
- 飛鳥—その時代 (映像展示 DVD)
- キトラ古墳壁画
- 発掘庭園一覧 List of Archaeologically Excavated Japanese Gardens version 2002
- 明治初期建築関連文書資料集 (1)
- 国・都道府県・市町村指定文化財建造物目録 (上)(下)
- 奈良文化財研究所蔵 国宝・重要文化財建造物摺拓本等目録(上)(下)
- 奈良文化財研究所 国宝・重要文化財建造物 継手仕口集

#### 図書・写真資料 (2002 年 3 月 31 日現在)

図書：206,384 冊

単位：冊

区分	種別	購入	寄贈	計
2001 年度	和漢書	1,687	8,972	10,659
	洋書	33	82	115
累計	和漢書	66,671	130,297	196,968
	洋書	6,373	3,043	9,416

写真：737,723 点

#### データベース一覧

- 木簡データベース
- 全国遺跡データベース
- 古代・地方官衙・居宅・寺院関係遺跡文献データベース

人事異動 (2001.4.1 ~ 2002.3.31)

● 2001年4月1日付け (独立行政法人化にともない全職員発令)

所長 町田 章  
 飛鳥資料館館長事務取扱  
 総務部長 千葉 秀夫  
 管理部長併任  
 総務部総務課長 山下 登  
 総務部総務課総務係長 中川 正  
 総務部総務課総務係 田仲 裕一  
 総務部総務課予算・決算係長 寺澤 邦裕  
 管理部管理課長 筏津 隆広  
 管理部管理課課長補佐 關 一  
 管理部管理課専門員 櫻井 雅樹  
 飛鳥藤原宮跡発掘調査部併任  
 管理部管理課庶務係長 桑原 隆佳  
 管理部管理課会計係長 坂 美伸  
 管理部管理課年度係長 車井 俊也  
 管理部管理課会計係主任 江川 正  
 管理部業務課長 山崎 哲朗  
 管理部業務課課長補佐 大塚 真琴  
 管理部業務課研修・事業係長 木村 健次  
 管理部業務課施設係長 松井 敏夫  
 管理部業務課専門職員 飯田 信男  
 管理部管理課専門職員併任  
 管理部業務課施設係 上垣内茂樹  
 管理部文化財情報課長 梅田 和男  
 管理部文化財情報課長補佐 林 晴夫  
 管理部文化財情報課専門員 西田 健三  
 管理部文化財情報課専門職員 中西 建夫  
 飛鳥資料館併任  
 管理部文化財情報課資料・情報係長 藤原 誠  
 管理部文化財情報課展示係長併任  
 管理部文化財情報課文化財情報発信専門官  
 文化遺産研究部長 千田 剛道  
 文化遺産研究部建造物研究室長 黒崎 直  
 文化遺産研究部歴史研究室長 木村 勉  
 文化遺産研究部歴史研究室 綾村 宏  
 文化遺産研究部遺跡研究室長 吉川 聡  
 文化遺産研究部主任研究官 高瀬 要一  
 文化遺産研究部主任研究官 村田 健一  
 文化遺産研究部主任研究官 小野 健吉  
 平城宮跡発掘調査部長 金子 裕之  
 平城宮跡発掘調査部遺構調査室長事務取扱  
 平城宮跡発掘調査部写真資料調査室長併任  
 平城宮跡発掘調査部考古第一調査室長 井上 和人  
 平城宮跡発掘調査部考古第一調査室 豊島 直博  
 平城宮跡発掘調査部考古第二調査室長 川越 俊一  
 平城宮跡発掘調査部考古第二調査室 金田 明大  
 平城宮跡発掘調査部考古第二調査室 神野 恵  
 平城宮跡発掘調査部考古第三調査室長 山崎 信二  
 平城宮跡発掘調査部考古第三調査室 清野 孝之  
 平城宮跡発掘調査部考古第三調査室 渡辺 文彦  
 平城宮跡発掘調査部遺構調査室 蓮沼麻衣子

平城宮跡発掘調査部遺構調査室 清水 重敦  
 平城宮跡発掘調査部遺構調査室 中島 義晴  
 平城宮跡発掘調査部史料調査室長 渡邊 晃宏  
 平城宮跡発掘調査部史料調査室 馬場 基  
 平城宮跡発掘調査部史料調査室 市 大樹  
 平城宮跡発掘調査部写真資料調査室専門職員 井上 直夫  
 飛鳥藤原宮跡発掘調査部併任  
 平城宮跡発掘調査部写真資料調査室専門職員 牛嶋 茂  
 平城宮跡発掘調査部写真資料調査室 中村 一郎  
 平城宮跡発掘調査部宮跡整備指導専門官 渡邊 康史  
 平城宮跡発掘調査部主任研究官 深澤 芳樹  
 平城宮跡発掘調査部主任研究官 長尾 充  
 平城宮跡発掘調査部主任研究官 次山 淳  
 平城宮跡発掘調査部主任研究官 高橋 克壽  
 飛鳥藤原宮跡発掘調査部長 田辺 征夫  
 飛鳥藤原宮跡発掘調査部考古第一調査室長 安田龍太郎  
 飛鳥藤原宮跡発掘調査部考古第二調査室長 松村 恵司  
 飛鳥藤原宮跡発掘調査部考古第二調査室 石橋 茂登  
 飛鳥藤原宮跡発掘調査部遺構調査室長 西口 壽生  
 飛鳥藤原宮跡発掘調査部遺構調査室 箱崎 和久  
 飛鳥藤原宮跡発掘調査部史料調査室長 毛利光俊彦  
 飛鳥藤原宮跡発掘調査部史料調査室 山下信一郎  
 飛鳥藤原宮跡発掘調査部主任研究官 村上 隆  
 飛鳥藤原宮跡発掘調査部主任研究官 内田 和伸  
 飛鳥藤原宮跡発掘調査部主任研究官 花谷 浩  
 飛鳥藤原宮跡発掘調査部主任研究官 玉田 芳英  
 飛鳥藤原宮跡発掘調査部主任研究官 小池 伸彦  
 飛鳥藤原宮跡発掘調査部主任研究官 小澤 毅  
 飛鳥資料館学芸室長 岩本 圭輔  
 飛鳥資料館学芸室 西山 和宏  
 飛鳥資料館主任研究官 杉山 洋  
 埋蔵文化財センター長 沢田 正昭  
 埋蔵文化財センター遺物調査技術研究室長 山中 敏史  
 埋蔵文化財センター遺跡調査技術研究室長 西村 康  
 埋蔵文化財センター古環境研究室長 光谷 拓実  
 埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長 肥塚 隆保  
 埋蔵文化財センター保存修復工学研究室長 内田 昭人  
 埋蔵文化財センター文化財情報研究室長 小林 謙一  
 埋蔵文化財センター国際遺跡研究室長 巽 淳一郎  
 埋蔵文化財センター主任研究官 松井 章  
 埋蔵文化財センター主任研究官 森本 晋  
 埋蔵文化財センター主任研究官 高妻 洋成  
 ● 2001年10月1日付け  
 総務部長 中川 良和  
 管理部長併任  
 平城宮跡発掘調査部考古第三調査室 今井 晃樹  
 国立情報学研究所管理部長 千葉 秀夫  
 ● 2001年11月1日付け  
 管理部管理課年度係 田仲 裕一  
 ● 2002年1月1日付け  
 平城宮跡発掘調査部遺構調査室 金井 健  
 ● 2002年3月31日付け  
 定年退職 西田 健三  
 辞職 木村 勉

## 予算等

### ■ 予算(予定額)

単位:千円

	2001年度	(参考)2002年度
文部科学省からの運営費交付金(人件費を除く)	1,253,893	1,198,637
自己収入(入場料等) 予定額	13,828	13,966
計	1,267,211	1,212,603

### ■ 土地と建物

単位:m<sup>2</sup>

	土地	建物(建面積/延面積)	建築年
本館地区	8860.13	2724.01 / 6724.24	1964年ほか
平城宮跡資料館地区	※	10630.53 / 16149.67	1970年ほか
飛鳥藤原宮跡発掘調査地区	20515.03	5533.23 / 8006.96	1988年ほか
飛鳥資料館地区	17092.93	2353.84 / 4381.30	1974年ほか

### ■ 科学研究費補助金(2002年4月30日現在)

[ ]内の名称は2002年度

単位:千円

研究種目	2001年度		(参考)2002年度	
	件数	金額	件数	金額
COE形成基礎研究費 [特別推進研究]	1	50,000	1	39,000
特定領域研究	—	—	1	8,600
基盤研究(A)	4	32,890	4	43,290
基盤研究(B)	5	13,200	5	24,200
基盤研究(C)	10	8,000	9	7,200
奨励研究(A) [若手研究(B)]	5	4,400	9	7,100
特別研究員奨励費	4	4,300	1	1,200

職員一覧

(独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所)

奈良文化財研究所長  
町田 章

管理部長  
中川良和

協力調整官  
岡村道雄

文化遺産研究部長  
黒崎 直

平城宮跡発掘調査部長  
金子裕之

飛鳥藤原宮跡発掘調査部長  
田辺征夫

飛鳥資料館長(事務取扱)  
町田 章

埋蔵文化財センター長  
沢田正昭

